

令和 8 年度
授業計画
講義シラバス
(令和 8 年度入学生)



千葉県立農業大学校
農学科

目 次

1	教育理念	1
2	履修規程	2
3	講義要項	
(1)	教育課程表	7
(2)	時間割	8
(3)	農学科授業シラバス概要	
ア	教養科目	10
イ	専門教育科目	
(ア)	共通必須科目	26
(イ)	共通選択科目	56
(ウ)	専門選択科目	75
a	植物系科目	75
b	動物系科目	83
(4)	専攻実習	92
(5)	卒業論文	103

1 教育理念

千葉県立農業大学校(以下「大学校」という。)は、本県農業の発展に寄与する優れた農業の担い手及び指導者を育成することを目的としている。

ここで期待される担い手及び指導者とは、農業が自然の恵みを人間生活に還元する価値ある産業であるとする農業観に立つとともに、広い視野を持ち、時代の変革に速やかに対応できる高度な専門的知識・技術及び経営管理能力と客観的な判断力を有し、地域社会に貢献するために積極的に行動できる者である。

このため、大学校においては、校訓「志農創造」の理念に立ち、青年等のもつ無限の可能性の発掘と創造力の開発をめざし、教育の方針及び教育上の視点を次のとおり設定する。

(1) 教育方針

学科別教育方針は次のとおりとする。

ア 農学科

農業に関する実践的な知識、技術、経営管理能力を有する農業の担い手を育成する。

イ 研究科

農業に関する実践的かつ専門的な知識、技術、高度な経営管理能力を有する農業の担い手や指導者を育成する。

ウ 農業研修科

新たに就農しようとする者及び農業者が農業技術、農業経営に関する有益かつ実用的な知識・技術を習得するための研修を行う。

エ 機械化研修科

農業機械の安全かつ適正な取り扱いや効率的利用のための知識・技術習得するための研修を行う。

(2) 教育上の視点

次の視点に立ち教育を進めるものとする。

ア 広い視野を持つ豊かな人間性の形成

農業を、社会構造、経済構造及び農政の動向等、幅広い視点から捉え判断できるよう、豊かな人間性の形成をめざす。

また、寮生活の共同学習、集団生活を通して、自立と協調の精神を培う。

イ 高度な専門的知識・技術・経営管理能力の習得

農業における著しい技術革新に対応するため、高度な知識・技術並びにこれを駆使する経営管理能力の習得をめざす。

ウ 地域社会における指導者としての資質の養成

優れた農業経営者として、また地域社会における指導者として、その役割を果たすため、幅広い教養の会得と指導力を養成する。

エ 土に根ざした実践力のかん養

理論だけでなく、実践的な教育を通して、農業における創造のよろこびや可能性を追求できるような人間性を育む。

2 履修規程

(目 的)

第1条 この規程は、千葉県立農業大学校校則(以下「校則」という。)第19条第2項及び第48条の規定により授業科目の履修及び成績の評価に関する事項を定めるものとする。

(時間割並びに授業科目)

第2条 校長は授業計画と授業科目の時間割を年度の学期初めに公示する

(単位制)

第3条 学生は、個々の授業科目を履修し、当該授業科目に与えられた単位を取得するものとする。

(授業科目履修届)

第4条 授業科目のうち教養科目及び専門教育科目は、必ず履修しなければならない必修科目及び各学生の専門的な研究及び卒業に必要な単位数を考慮して選択される選択科目で構成する。

2 学生は、選択しようとする授業科目について、各学期の始めの授業科目に関する説明会の開催時に、授業科目履修届(別記1号ー1様式、第1号ー2様式)を校長に提出しなければならない。

3 授業科目履修届を提出した後の取消し又は変更は、原則としてこれを認めない。

(出席要件)

第5条 学生は、授業科目の単位を取得するためには、履修しようとする授業科目の授業時数の5分の4以上出席しなければならない。

校則抜粋

(欠席)

第13条 生徒は、疾病その他の理由により授業を欠席しようとする場合は、その理由を付した欠席届(別記第10号様式)を校長に提出しなければならない。この場合において、疾病による欠席が連続して7日以上にわたる場合は、医師の診断書を添えなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、生徒が忌引、災害その他やむを得ない理由により授業に出席できない場合は、校長が別に定めるところにより、欠席の扱いとしない。

3 同一の教科において、30分以内の遅刻、早退又は一時退席を3回行った場合は、1回の欠席の扱いとする。

4 前項の規定にかかわらず、実習については、遅刻又は早退を行った場合は、原則として欠席の扱いとする。

(単位の認定方法)

第6条 授業科目の単位の認定は、前条の出席要件を満たしている者に対して筆記試験、論文、レポート、学習態度等により総合して認定するものとする。ただし、演習、実験、実習等の授業科目については、筆記試験を省略し、論文、レポート、出席状況又は学習態度によって認定することができる。

2 授業科目の成績の評価及び単位の認定は、次の各号に掲げる方法によって行うものとする。

(1) 成績の評価は、100 点法をもって行う。

(2) 成績の評価が 50 点から 100 点までの学生を認定とし、50 点未満の学生を不認定とする。

(3) 成績証明書及び学籍簿の記載は、次の表に掲げる標語をもって表示する。

判 定		認 定			不 認 定
評 価	点 数	100 点～80 点	79 点～65 点	64 点～50 点	49 点～0 点
	標 語	優	良	可	不可

3 本校における学業成績の評定平均値は、前項に規定する成績評価を用いて、次の計算式により算出するものとする。

※計算式 $(\text{優} \times 4 + \text{良} \times 3 + \text{可} \times 2) \div (\text{優の科目数} + \text{良の科目数} + \text{可の科目数})$

(技能審査成果の単位認定)

第7条 本校における技能審査の成果における単位認定の種類、対応科目、認定の単位数は、別表のとおりとする。この場合において、校長は、学生が別表の資格の欄に掲げる技能審査に合格し、資格を取得した場合は、当該学生からの申請に基づき、同表対応科目の欄に掲げる授業科目に同表技能単位の欄に掲げる単位数を認定することができる。

2 前項後段の認定を受けようとする学生は、技能審査の成果の単位認定申請書（別記第2号様式）を校長に提出しなければならない。

3 第1項後段の規定により認定することができる単位数は、5単位を限度とし、在学中における受検により合格した資格に限り認定を行うものとする。

4 同一の種類の技能審査で2つ以上の級等に合格した場合は、上位級の単位数を認定するものとする。

5 校長は、第1項後段の規定により単位を認定する場合は、当該単位に係る成績の評価は行わない。

6 校長は、第1項後段の規定により単位を認定した場合は、当該単位を卒業の認定に必要な単位に加算できるものとする。この場合において、当該認定に係る学生の学業成績記録に認定単位数、資格の種類及び合格日を記載するものとする。

(研究科における単位認定の特例)

第8条 本校研究科における科目単位を本校農学科在籍時に取得した場合は、研究科の単位として、当該学生からの申請に基づき、認定することができる。

2 前項の認定を受けようとする学生は、単位認定申請書（別記第3号様式）を校長に提出しなければならない。

3 第1項の規定により単位を認定する場合は、当該単位に係る成績は農学科在籍時に取得した評価とする。

(再履修)

第9条 学生は、単位の取得の認定が行われなかった授業科目について、単位を取得しようとする

場合は、再履修実施願（別記第 4 号様式）を校長に提出し、再履修をしなければならない。

- 2 単位の取得の認定が行われなかった授業科目がある者は、当該年度中又は翌年度以降に再度、評価を受けなければならない。
- 3 単位の取得の認定が行われなかった実習がある者は、当該年度中又は翌年度以降に再度、実習を行った後に評価を受けなければならない。

（筆記試験）

第 10 条 本校の筆記試験は、学生全員を対象に各学期末に行う定期試験及び授業科目の授業時間内で適宜な時期に行う臨時試験とするものとする。この場合において、実施日を少なくとも 7 日前に、学生に通告するものとする。

- 2 所定の期日に病気、事故その他のやむを得ない事由で筆記試験を受験できなかった者に対しては、追試験を行うものとする。
- 3 前項の追試験を受けようとする者は、速やかに追試験願（別記第 5 号様式）に、欠席届（別記第 6 号様式）及び医師の診断書、事故の証明書その他の欠席の理由を証明する書類を添えて、校長に提出しなければならない。

（受験上の注意）

第 11 条 筆記試験を受験する学生は、次の各号に掲げる事項を守らなければならない。

- （1）学生は、特別の指示がない限り、試験開始の 5 分前に所定の教室に入室すること。
- （2）特に指定された場合は指定の座席において受験すること。
- （3）受験に必要な物品以外は試験監督者の指示する場所に置くこと。
- （4）受験中は筆記用具類の貸借をしないこと。
- （5）試験開始後 30 分以上が経過しなければ退室してはならない。
- （6）30 分以上遅刻した者は、原則として受験することができない。
- （7）答案に学籍番号及び氏名の記載がない場合は無効になることがある。
- （8）試験時間が終了したとき、又は終了前に答案を作成し終わったときは、特に指示がない限り、教卓上に提出し、又は試験監督者に直接手渡して、静かに退室すること。

（不正行為）

第 12 条 筆記試験の受験中に不正行為があった場合は、直ちに答案を回収し、当該不正行為を行った学生に対して退室を命じる。この場合において、回収した答案は無効とする。

- 2 不正行為を行った学生は、校則第 28 条に規定する懲戒の対象とする。

（補 則）

第 13 条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則

（施行期日）

- 1 この規程は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

(千葉県農業大学校履修規程の廃止)

- 2 千葉県農業大学校履修規程は、廃止する。

附 則 (平成 26 年 3 月 7 日一部改正)

この規程は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

- 3 この規程は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

(附則一部改正)

- 4 この規程は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

(附則一部改正)

- 5 この規程は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

(附則一部改正)

- 6 この規程は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

(附則一部改正)

- 7 附 則 (令和 3 年 3 月 9 日一部改正)

この規程は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。

- 8 附 則 (令和 5 年 12 月 7 日一部改正)

この規程は、令和 5 年 12 月 7 日から施行する。

- 9 附 則 (令和 5 年 12 月 25 日一部改正)

この規程は、令和 5 年 12 月 25 日から施行する。

- 10 附 則 (令和 6 年 1 月 31 日一部改正)

この規程は、令和 6 年 1 月 31 日から施行する。

- 11 附 則 (令和 7 年 2 月 14 日一部改正)

この規程は、令和 7 年 2 月 14 日から施行する。

- 12 附 則 (令和 7 年 6 月 18 日一部改正)

この規程は、令和 7 年 6 月 18 日から施行する。

- 13 附 則 (令和 7 年 10 月 10 日一部改正)

- 1 この規程は、令和 7 年 10 月 10 日から施行する。

- 2 下記 農学科の「資格」「対応科目」「技能単位」は、令和 8 年 3 月 31 日まで適用する。

資格：農業派遣実習（3 週間） 対応科目：農業派遣実習 技能単位：1

[別 表]

技能審査の成果の単位認定に関する基準

同一資格名で種別等が異なる資格を取得した場合、単位数の多い資格を認定する。
また、危険物取扱者（乙種）に関しては、複数の種を取得しても単位は1とする。

農学科

資格	対応科目	技能単位
毒物劇物取扱者（一般），（農業）	病理・昆虫学	2
危険物取扱者（乙種）	農業工学	1
日商簿記検定（3級）	農業会計論	1
日商簿記検定（1，2級）	農業会計論	2
農業簿記検定（1級）	農業会計論	1
日商 PC 検定文書作成，データ活用（3級）	教養基礎講座	1
日商 PC 検定文書作成，データ活用（2級）	情報処理概論Ⅱ	2
土壤医検定（3級）	土壤肥料概論	1
土壤医検定（2級）	土壤肥料概論	2
家畜商	畜産学概論	1
家畜人工授精師	家畜繁殖学	2
農業技術検定（2級）	キャリア基礎講座	1
農業技術検定（1級）	キャリア基礎講座	2
TOE I C（400点以上）	基礎英語会話	1
食品衛生責任者	食品加工実習	1

3 講義要項

(1) 教育課程表

千葉県立農業大学校校則(第18条関係)

教育課程表（農学科）（令和8年度）

令和8年度入学生（1年生）

科目群	科目	単位	時間	1年		2年		備考
				前期	後期	前期	後期	
教養科目	教養基礎講座	1	15	○				
	ちば農業未来塾	1	15	○				
	情報処理概論Ⅰ	2	30	○				
	情報処理概論Ⅱ	2	30			○		
	日本語表現法	2	30		●			
	哲 学	2	30			○		
	農業法律学	2	30	○				
	農業法律学演習	1	30				●	
	経済学	2	30	○				
	社会学	2	30		(●)		(●)	
	農業基礎化学	2	30			○		
	生物学	2	30	○				
	保健・体育実技	1	30			○		
	英語会話	2	30		●			
	小計	20 以上	330 以上					
専門教育科目	共通必修科目	生物化学実習	3	90	◎			
		農場実習	12	360	◎			
		国際農業実習・海外情勢理解	2	60		●		
		農業派遣実習	3	90	◎			
		作物・園芸学概論	1	15	○			
		植物防疫概論	1	15	○			
		土壌肥料概論	1	15	○			
		畜産学概論	1	15	○			
		農業経営・経済学概論	2	30	○			
		農業会計論	2	30		●		
		農業生産工程管理論	2	30			●	
		流通マーケティング論	2	30		●		
		農業機械実習Ⅰ	3	75	◎			
		食品学	2	30			●	
		6次産業化論・実習	3	75			◎	
		現地視察・実践実習	1	30	◎		◎	
		キャリア実習(就職・雇用就農)	4	120	◎			
		キャリア実習(農業経営改善)	4	120	◎			
		キャリア基礎(就活実践)	2	30		●		
		キャリア基礎(就農計画)	2	30		●		
		小計	47	1,140				
	共通選択科目	農業環境概論	2	30	○			
		生物統計学	2	30		●		
		農業工学	2	30			●	
		農業協同組合論	2	30			●	
		農業経営分析・改善論	2	30			○	
		農業政策論	1	15		●		
		チャレンジ有機農業講座	2	45		●		
		模擬農業経営演習	4	120			◎	
		農業気象学	2	30		○		
		国際食料・農業事情論	2	30			●	
		スマート農業技術論	1	15			●	
		花き装飾論	2	30		●		
		園芸療法論	2	30			●	
		農業機械実習Ⅱ	1	24	(◎)		(◎)	
		農業機械実習Ⅲ	1	30		(●)	(●)	
		有害鳥獣対策講座	1	24		(●)	(●)	
		小計	14 以上	180 以上				
専門教育科目	植物系科目	植物生理学	2	30		(●)	(●)	
		植物育種学	2	30			●	
		病理・昆虫学	2	30			●	
		土壌・肥料学	2	30		●		
		作物学	2	30	○			
		野菜園芸学	2	30			○	
		果樹園芸学	2	30		●		
		花き園芸学	2	30		●		
		小計	12 以上	180 以上				
	動物系科目	家畜育種学	2	30			●	
		家畜繁殖学	2	30			●	
		家畜生理学	2	30		●		
		家畜環境保全学	2	30			●	
		飼料学	2	30			●	
		酪農・肉牛	2	30		●		
		養 豚	2	30	○			
		養 鶏	2	30			●	
		小計	12 以上	180 以上				
	専攻実習		15	450			◎	
	卒業論文		4				◎	
	合計		112 以上	2,400 以上				

○講義は、1単位15時間

○実習は、1単位30時間

○：前期

●：後期

◎：通年

(2) 時間割

前期

令和 8 年度 農学科

学年	令和 8 年度 農学科 1 年 (令和 8 年度入学生用)				
時限	I	II	III	IV	V
時刻	9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:15～17:00
月	SR 農場実習 (実習担当)[各農場] (農場実習B:基本技術の習得を図るための実習を受ける) 栽培計画策定、ほ場準備、施肥、は種、定植ほ場管理、農薬散布、かん水、収穫、出荷調製、販売、収支計算		A GE 情報処理 概論Ⅰ(澤田) [パソコン室] B 前半 SR 畜産学概論 (前之園) [第1講義室] 7コマ B 後半 SR 植物防疫概論 (内田)R8入 [第1講義室] 7コマ	B GE 情報処理 概論Ⅰ(澤田) [パソコン室] A 前半 SR 畜産学概論 (前之園) [第1講義室] 7コマ A 後半 SR 植物防疫概論 (内田)R8入 [第1講義室] 7コマ	HR 担任 [第1]
火	隔)SR キャリアサポート実習 (井上(雄)・高田・中田・田川(和)・山下・田川(真)) [第1講義室・外部]		隔)前期前半 SR 作物・園芸学概論 (山下) [第1講義室] 7コマ 隔)前期後半 SR 土壌肥料概論 (高田) [第1講義室] 7コマ		
水	GE 経済学 (渡辺) [第1講義室]	GE 生物学 (国武) [第1講義室]	(前半) GE 7コマ 教養基礎講座 (山本) (後半) GE 7コマ ちば農業未来塾 (外部講師・井上) [第1講義室]	SS 農業環境概論 (多田) [第1講義室]	
木	SR 農場実習 (実習担当)[各農場] (農場実習A:基本技術の習得を図るための実習を受ける) 農作業器具、刈払い機、作業機、トラクタ、畝立て、マルチ張り、農薬散布、堆肥づくり		SR 生物化学実習 (中田・高田・清水・田川(和)・井上(雄)・山下・永山・田川(真)) [生物・化学系実験室]		
金	SR 農場実習 (実習担当)[各農場] (農場実習C:農場系の各専攻教室で各専門分野の栽培管理に係る農場実習を受ける)		SSP 作物学 (太田) [第1講義室] SSA 養豚 (吉田(早)) [第2講義室]	GE 農業法律学 (大島) [第1講義室]	
GE 教養科目 SR 専門必修 SS 専門共通選択 SSP 植物系科目 SSA 動物系科目					
隔) 隔週 前半・後半 前期の内、前半及び後半 A、B クラスを2つに分けて実施					

後期 令和8年度 農学科

学年	令和 8 年度 農学科 1 年 (令和 8 年度入学生用)				
時限	I	II	III	IV	V
時刻	9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:15～17:00
月	GE 英語会話 (石橋) [第1講義室] R8入	SR 農業会計論 (井上(敬)) [第1講義室]	SR 生物化学実習 (中田・高田・清水・田川(和)・井上(雄) ・山下・永山) [生物・化学系実験室]		HR 担任 [第1]
火	GE 社会学 (島村) [第1講義室]	GE 日本語表現法 (小鷹) [第1講義室]	SSチャレンジ有機農業講座 (講座は8月から開始) (真行寺・高田・山下) [農場]		
	SSP 植物生理学 (永山) [第3講義室] R8入		SSA 酪農肉牛 (井上(貢)) [第2講義室] R8入	SSP 果樹園芸学 (吉田(明)) [第1講義室] R8入	
			SS 花き装飾論 (笹原) [第4講義室]	SSP 花き園芸学 (田川(和)) [第3講義室] R8入	
水	SSP 土壌・肥料学 (井上(雄)) [第1講義室]	SR 流通 マーケティング論 (中山) [第1講義室]	SR 農場実習 (実習担当) [各専攻教室]		SR 教養基 礎補講 (山本) [第1講義 室]
	SSA 家畜生理学 (薫田) [第2講義室]				
木	SR キャリア基礎講座 (就活実践コース、 就農計画策定コース) (大島・佐藤・加瀬 ・土屋・中村・高田) [第1講義室]	SS 農業政策論 (外部講師・江口) [第3講義室] 7コマ	SR 農場実習 (実習担当) (農場実習A・B: 前期に実施した内容の基本技 術の習得を図るための実習を受ける) 刈払い機、トラクタ、栽培計画策定・ほ場準備、 施肥、は種、定植、ほ場管理、かん水、収穫、 出荷調製、販売、収支計算		
		SS生物統計学 (溝田) [パソコン教室]			
金	前半 SR キャリアサポート実習 (①キャリア体験実習コース・②農業経営改善演習 コース) (①井上(雄)・高田・山下・田川(和)、 ②山本、保坂、山下) [第1講義室・外部、農場]		SR 農場実習 (実習担当) [各専攻教室]		SR 海外情 勢理解 [第1講義 室]
	後半 (就農・就職活動、企業説明会) (研究科キャリアビジョン講座と兼ねる) [継続] 農業経営改善演習コース(自主栽培・経 営分析)(山本、保坂、山下)				

GE 教養科目 SR 専門必修 SS 専門共通選択 SSP 植物系科目 SSA 動物系科目
隔) 隔週 前半・後半 前期の内、前半及び後半 R8入 令和8年度入学生用講座

8月、2月集中講座	1単位、4コマ×3日	SS 農業機械実習Ⅱ、農業機械士資格
土日集中講座	1単位、4コマ×4日	SS 農業機械実習Ⅲ、フォークリフト、ユンボ
9/2(水)～4(金)	1単位、4コマ×3日	SS 有害鳥獣対策講座

(3) 農学科授業シラバス概要

ア 教養科目

授業科目(履修区分)	教養基礎講座 (教養科目)		担当教員	山本 茂樹	
対象年次	農学科1年		期 別	令和8年度 前期	
単 位 数	1単位	講義：1単位	時 間 数	15時間	
		実習： 単位			
授業の目的及び概要	農学を学ぶ上で必要な計算技術の基礎を学ぶとともに、近年における日本農業の魅力と課題について考察し理解を図る。				
授業の到達目標	農業を始めるにあたり必要な心構え、農業に必要な数学や科学、栽培に関する基礎知識の習得および農業の課題を理解する。				
授業の方法	基礎数学・基礎科学・栽培に関する基礎知識を習熟するための講座とし、理解度を小テスト、中間レポートにより確認する。 また、習熟度により補講を実施する場合がある。				
授業内容				講義	実習
	1 農学に求められることとは 2 農業に必要な計算技術Ⅰ（小テスト） 3 農業に必要な計算技術Ⅱ（小テスト） 4 中間レポート 5 農業に必要な計算技術Ⅲ（小テスト） 6 農業に必要な計算技術Ⅳ（小テスト） 7 栽培に関する基礎知識（小テスト） 8 期末試験 * 講義に臨むに当たって、テキストの事前学習・練習問題を各自、学習することが望ましい。			2 2 2 1 2 2 2 2	
テキスト	講義担当者作成小冊子（教養基礎講座テキスト）				
成績評価の方法	学習態度（10%）、出席日数（10%）、小テスト・レポート（30%）、期末試験（50%）				
備 考	参考図書 農業と環境（実教出版）				

授業科目(履修区分)	ちば農業未来塾 (教養科目)		担当教員	井月 明、井上雄樹
対象年次	農学科1年		期 別	令和8年度 前期
単 位 数	1単位	講義：1単位 実習： 単位	時 間 数	15時間
授業の目的及び概要	農業の魅力を伝える内容の授業とし、講義の半分以上は農業現場で実践している農業経営者に登壇してもらう講座とし、受講による農業観の醸成を図る。			
授業の到達目標	農業観を醸成し、将来の就農について具体的なイメージを持つ。			
授業の方法	農業の魅力を伝えられる指導農業士や先駆的に取り組んでいる本校の卒業生・修了生から選んで外部講師として登壇してもらう。			
授業内容			講義	実習
	1 農業について		2	
	2 外部講師 講演①		2	
	3 外部講師 講演②		2	
	4 中間レポート		1	
	5 外部講師 講演③		2	
	6 外部講師 講演④		2	
	7 外部講師 講演⑤		2	
	8 ディスカッション		2	
テキスト	視察・講演に係る資料やパンフレット等			
成績評価の方法	レポート (50%)、ディスカッション (50%)			
備 考				

授業科目 (履修区分)	情報処理概論Ⅰ (教養科目)		担当教員	澤田 博光	
対象年次	農学科１年		期 別	令和８年度 前期	
単 位 数	2単位	講義： 2単位 実習： 単位	時 間 数	30時間	
授業の目的 及び概要	大学生生活および卒業後の社会人として必要となるコミュニケーション手段として、電子デバイス（パソコン、携帯、タブレットなど）で動作する基本的なアプリケーション（Word、Excel、PowerPoint）による情報処理について学習する。パソコンを使用して基本操作の学習と演習を行うことで、情報処理の基本的な知識と操作方法を学習する。				
授業の到達 目標	達成目標は、大学生生活および社会人として必要な文書作成・表計算・プレゼンテーションの代表的なソフトである Word、Excel、PowerPoint についての操作方法を習得することで、情報を適切に活用するための知識と技能を身につけ、大学や社会での実践の場で活用できるようになる。				
授業の方法	講義は、対面の授業を中心とする。授業では、課題レポートに提出による自主学習を取り入れる。				
授業内容	主な講義内容			講義	実習
	1	ガイダンス（授業内容の説明、教員自己紹介）		2	
	2	ワープロソフト（Word）の利用			
		… 文書の作成		2	
	3	〃	… 図や表の挿入・編集、文章の印刷	2	
	4	〃	… 表現力のアップ・レポートのレビュー	2	
	5	〃	… 便利な機能、練習問題	2	
	6	表計算ソフト（Excel）の利用			
		… データの入力、修正、保存		2	
	7	〃	… 表・グラフの作成・編集、印刷	2	
	8	〃	… DB 機能の活用、関数の活用、表示形式	2	
	9	〃	… ピボットテーブルの作成、マクロ作成	2	
	10	ワープロ（word）、表計算ソフト（Excel）の演習問題		2	
	11	プレゼンテーションソフト（PowerPoint）の利用			
		… 資料作成、オブジェクトの挿入・編集		2	
	12	〃	… 構成変更、スライド共通デザイン設定	2	
13	〃	… 特殊効果の設定、プレゼンの実行	2		
14	〃	… 発表者用ノートの作成、練習問題	2		
15	“人に伝える、人に伝わる” 資料の作成、まとめ		2		
テキスト	情報リテラシー アプリ編（Windows11・Office2021 対応） FOM出版 富士通ラーニングメディア				

成績評価の方法	練習問題（word/Excel/PowerPoint）（50％）＋ 演習問題（50％） ※：練習問題、演習問題は、授業の中で説明する。（期限までに Google Classroom で提出する。）
備 考	【事前学習】 ・ 授業前に授業内容に相当する教科書の内容を理解する。 【事後学習】 ・ 当日の授業内容を振り返る。 ・ 練習問題（演習）がある場合は期日までに提出する。 ・ 練習問題（演習）は、Google Classroom で提出する。

授業科目(履修区分)	情報処理概論Ⅱ (教養科目)		担当教員	野尻 八千代	
対象年次	農学科2年		期 別	令和9年度 前期	
単 位 数	単位	講義： 2単位 実習： 単位	時 間 数	30時間	
授業の目的及び概要	農業経営，農業関連産業において必要とされる情報リテラシー（情報活用能力）を適切に活用するための技術習得を目指す。				
授業の到達目標	情報処理技術検定3級合格レベルのスキルを目標とし，企業や社会が求める実践的なアプリケーションの操作方法を身につける				
授業の方法	Microsoft Office 2016 (Word, Excel, PowerPoint) の活用方法を資料作成を通して実践に近い形で学習する。				
授業内容	主な講義内容			講義	実習
	1. Word：段落の概念（文字の配置・インデント）			2	
	2. Word：段落書式（行間・固定値・段落罫線）			2	
	3. Word：タブとリーダー（タブ設定・リーダー線）			2	
	4. Word：図表の配置（表の作成と編集・文字の折り返し）			2	
	5. Word：ページの管理（ヘッダー・フッター・改ページ）			2	
	6. Word：レポート作成（練習問題）			2	
	7. Excel：数式と計算（四則演算・セル参照・オートSUM）			2	
	8. Excel：表示形式と関数（表示形式・MIN・MAX）			2	
	9. Excel：セルの参照（相対参照・複合参照・絶対参照）			2	
	10. Excel：グラフ（作成と編集・データソース編集追加）			2	
	11. Excel：データベース機能（並べ替え・フィルタ・小計）			2	
	12. Excel：関数（ROUND・IF・COUNT・VLOOKUP）			2	
	13. PowerPoint：デザインから効果的なプレゼンを考える			2	
	14. PowerPoint：アニメーションを利用した情報表現			2	
	15. 期末試験			2	
テキスト	授業時にプリント資料を配布して，教材とする				
成績評価の方法	評価配分は以下の通りとする。 ○期末試験:60% ○授業への参加・取り組み・発表:40%				
備 考	授業時にプリント資料を配布して，教材とする				

授業科目(履修区分)	日本語表現法 (教養科目)		担当教員	小鷹 文美
対象年次	農学科1年		期 別	令和8年度 後期
単 位 数	2単位	講義：2単位 実習： 単位	時 間 数	30時間
授業の目的 及び概要	文章の書き方の基礎的な知識を学んだ上で、自分のことを説明する説明文、物事を時系列に沿って説明する歴史文、テーマに関する意見文など、さまざまなタイプの作文を書くことで、自らの表現能力を磨く。 文書に関する知識や文章を作成する方法を学び、一人一人がより適切な日本語表現ができるようになるための基礎力を養う。			
授業の到達 目標	この授業では、主に400～600字程度の文章を書くことを通して、日本語表現能力を身につける。日本語リテラシーを身につけ、語彙力を高め、わかりやすい文章表現を選択できるようになる。			
授業の方法	さまざまなタイプの文章を書くことで、自らの表現能力を磨く。各回のテーマに関するグループワークを行い、他者の考えを理解する力、また自らの考えを言語化できる表現力を高める。			
授業内容			講義	実習
	1 文書作成の基本		2	
	2 「話し言葉」と「書き言葉」		2	
	3 文章の書き方① —正確な文章を書く		2	
	4 文章の書き方② —自然な流れの文章を書く		2	
	5 文章の書き方③ —説得力のある文章を書く		2	
	6 説明文を書く① —自分の故郷の説明文		2	
	7 説明文を書く② —好きな作品の紹介文		2	
	8 中間レポート		2	
	9 歴史文とは何か —根拠を示して分かりやすい文章		2	
	10 歴史文を書く① —自分の趣味についての歴史文		2	
	11 歴史文を書く② —自分の夢や目標についての歴史文		2	
	12 意見文を書く —自分の意見を効果的に伝える		2	
	13 手紙文とメールの作成、敬語の使い方		2	
	14 小論文作成		2	
	15 期末試験		2	
テキスト	必要に応じてプリントを配布。			
成績評価 の方法	期末試験と平常点によって評価する。 期末試験50%、平常点（提出物・授業態度）50%			
備 考				

授業科目(履修区分)	哲学 (教養科目)		担当教員	高橋 克典
対象年次	農学科2年		期 別	令和9年度 前期
単 位 数	2単位	講義：2単位 実習： 単位	時 間 数	30時間
授業の目的及び概要	「あなたは何のために生きているのですか？」と聞かれたら、皆さんは何と答えますか？そもそも自分とは一体何なのでしょう？それを過不足なく言葉にして表現することなど不可能に等しいのかもしれませんが。とはいえ、私たちは常にこのことを問いながら、生きていかなければならないともいえるのでしょ 知識として学ぶのではなく日常のテーマを通して自分で考える力を養う。また、人間の本音と建前に着目し普段あまり意識しない考え方のクセや前提を問いなおす。			
授業の到達目標	自立した一人の人間として、自分自身で考え、判断し、責任をもって行動する力を身につける。身近な問題を軸に置きながら、多角的に考える力を養うことを目指す。日常の出来事を深く捉える視点を得る。			
授業の方法	テーマ提示⇒個人で考える。 グループで共有。 全体で意見交換。 教員による整理と問いの提示。 ※正解を提示する授業ではなく、考える過程を重視する。			
授業内容	1 あなたの夢 2 なぜ人は悩むのか 3 自分とは何か 4 本当に自分で決めているのか 5 人はなぜ裏切るのか 6 恋愛は必要か 7 愛とはなにか 8 愛は自由か束縛か 9 お金と幸せ 10 幸福とは何か 11 なぜ不幸になるのか 12 人はなぜ働くのか 13 人生の意味とは何か。 14 期末試験・振り返り 15 レポート		講義	実習
テキスト	授業毎に資料を配布する			
成績評価の方法	講義内容取組 (30%)、課題レポート・小テスト (40%) 期末試験 (30%)			
備 考				

授業科目(履修区分)	農業法律学 (教養科目)		担当教員	大島 大
対象年次	農学科1年		期 別	令和8年度 前期
単 位 数	2単位	講義：2単位 実習： 単位	時 間 数	30時間
授業の目的及び概要	憲法・民法等の個々の法律の知識に加え、法律的なものの考え方を習得する。			
授業の到達目標	農業経営者として、また、地域農業の指導を行うにあたり必要な農業関係の法律を学ぶ講座とする。			
授業の方法	授業内容に沿って講義を実施する。毎授業時にレジュメ、資料を配布する。			
授業内容			講義	実習
	1 「法」とは何か 法律・法について、その定義や歴史、分類など。		2	
	2 憲法 ①わが国の憲法・立法（国会）。		2	
	3 憲法 ②行政（内閣）・司法（裁判所）。		2	
	4 憲法 ③基本的人権について、自由権。		2	
	5 憲法 ④基本的人権の続きで、社会権、参政権など。		2	
	6 刑法・刑事訴訟法 刑罰の種類や刑事裁判までの手続き。		2	
	7 裁判 裁判所の種類、刑事裁判・民事裁判のながれ。		2	
	8 民法 ①「人」とは何か。		2	
	9 民法 ②「物」とは何か、所有権。		2	
	10 民法 ③物権変動、登記・引渡しについて。		2	
	11 民法 ④契約とは何か、契約の種類について。		2	
	12 民法 ⑤契約が履行されなかった場合。時効。		2	
	13 民法 ⑥親族法、夫婦・親子について。		2	
	14 民法 ⑦相続法 相続とは何か。		2	
	15 期末試験		2	
テキスト	毎授業時にレジュメを配布する。必要のあるときに随時紹介する。			
成績評価の方法	定期試験（50%）、授業への参加・取組（50%）			
備 考				

授業科目(履修区分)	農業法律学演習 (教養科目)		担当教員	大島 大
対象年次	農学科2年		期 別	令和9年度 後期
単 位 数	1単位	講義：1単位 実習： 単位	時 間 数	30時間
授業の目的及び概要	農業（特に農地）に関する法律について、歴史的背景や政策などを踏まえて法制度の変遷および問題点を検討することによって、現在の農業の在り方についての理解を深める。			
授業の到達目標	農地法、農業経営基盤強化促進法等、農業経営者として、また、地域農業を行うにあたり、必要な農業関係の法律の具体的な運用に係る理解を深める。			
授業の方法	グループワーク、ディスカッション等の演習を行う。			
授業内容			講義	実習
	1 ガイダンス・「農地」とは 農地の定義（農地法・不動産登記法）について。		2	
	2 農地改革 地租改正から農地改革を経て農地法制定まで。		2	
	3 農地法 1 農地法の目的やこれまでの農地法改正について。		2	
	4 農地法 2 権利移動の制限（3条）。貸借の自由化など。		2	
	5 農地法 3 転用の制限（4条）。農振法・都市計画法や生産緑地法。		2	
	6 農地法 4 3条4条以外の内容。農業委員会について。		2	
	7 農地の流動化 1 農業基本法から農用地利用増進法まで。		2	
	8 農地の流動化 2 農業経営基盤強化促進法（基本方針・認定農業者等）。		2	
	9 農地の流動化 3 農業経営基盤強化促進法による農地の権利移動。		2	
	10 食の安全と流通 1 食品安全基本法、食品衛生法、JAS 法など。		2	
	11 食の安全と流通 2 農薬取締法、トレーサビリティ、PL 法など。		2	
	12 米政策 1 食管法から旧食糧法、改正食糧法まで。		2	
	13 米政策 2 直接支払制度について		2	
	14 農家の税金 所得税、法人税、住民税、相続税など。		2	

	15 期末試験	2	
テキスト	毎授業時にレジュメを配布。 必要のあるときに随時紹介。		
成績評価の方法	期末試験を実施する。評価配分は以下の通り。 試験(50%)、授業への参加・取組(50%)		
備 考			

授業科目(履修区分)	経済学 (教養科目)		担当教員	渡邊 修朗
対象年次	農学科1年		期 別	令和8年度 前期
単 位 数	2単位	講義：2単位 実習： 単位	時 間 数	30時間
授業の目的 及び概要	市場経済を軸に、政治と経済を教養として学ぶ。市場経済とは何か、その特色と仕組みについて、また、市場経済の成立、資本主義の成立と課題から、戦後の日本経済の栄枯盛衰を解説。さらに、アメリカ経済を中心とする新自由主義の展開とリーマンショックの発生などをとりあげ、2000年以降から現在までの市場経済の大きな流れを学ぶ。			
授業の到達 目標	社会人として必要な政治・経済に関する基礎的な知識を身に付ける。政治経済に関する学習を通して、現代社会の動きをみる視点を養い、将来のビジネスに関する展望を持てるようにする。			
授業の方法	事前学習としてテキストを読んでおく。 事後学習として講義後の課題に関して考察を行い、課題を提出する。			
授業内容			講義	実習
	1 市場経済と競争		2	
	2 市場経済と資源の最適配分		2	
	3 市場経済と価格		2	
	4 市場経済の成立する条件		2	
	5 近代以前の社会		2	
	6 近代国家の成立と市場経済		2	
	7 自由主義経済の世界		2	
	8 資本主義の成立		2	
	9 20世紀の危機		2	
	10 マクロ経済政策と戦後の世界		2	
	11 戦後の日本経済Ⅰ（戦後復興期～高度成長期）		2	
	12 戦後の日本経済Ⅱ（安定成長期～バブルの崩壊）		2	
	13 新自由主義経済論		2	
	14 転換期の世界経済		2	
	15 期末試験		2	
テキスト	「教養としての政治と経済」（渡辺修朗 学文社）			
成績評価 の方法	定期試験（50%）、課題（30%）、授業への参加（20%）から判断			
備 考				

授業科目(履修区分)	社会学 (教養科目)		担当教員	島村 賢一
対象年次	農学科1年 農学科2年		期 別	令和8年度 後期 令和9年度 後期
単 位 数	2単位	講義：2単位 実習： 単位	時 間 数	30時間
授業の目的及び概要	社会学の基本的な考え方や方法を理解し、農業関係者として様々な社会現象を深く広く洞察できる能力を養い、人間がいかに地球環境において他者と共に生きる存在であるのかを把握できるようにする。			
授業の到達目標	社会に関する様々な現象をデータに基づき判断し、その背後にある意味を理論的、歴史的に考察できるようになる。			
授業の方法	事前学習として該当回のプリントを読んでおくこと。事後学習として該当回のプリントを再読し、「学習ポイント」の問いに解答できるか確認すること。			
授業内容	1 社会学とは何かー社会学入門 2 社会学の歴史①ー近代社会の成立とコント 3 社会学の歴史②ースペンサーとマルクス 4 社会学の歴史③ーヴェーバーとデュルケーム 5 社会調査法①ー社会調査の基礎論 6 社会調査法②ー量的調査（アンケート調査） 7 社会調査法③ー質的調査（フィールドワークとヒアリング） 8 自主学習 9 社会学の基礎理論①ー行為論と社会関係論 10 社会学の基礎理論②ー集団論と社会構造論 11 家族ーその基礎概念と歴史的位相 12 ジェンダー論の基礎と歴史的展開 13 少子高齢社会ーその要因と歴史的展開 14 エスニシティと民族問題ー難民・移民・外国人労働者問題 15 期末理解度テスト		講義	実習
テキスト	講義レジュメと学習ポイントの2種類のプリントを配布			
成績評価の方法	期末理解度テスト（40%）、期末に提出する自主研究レポート（30%）、授業への参加・取り組み・発表（30%）			
備 考	参考図書『テキスト現代社会学[第4版]』松田健著ミネルヴァ書房 2022			

授業科目(履修区分)	農業基礎化学 (教養科目)		担当教員			
対象年次	農学科2年		期 別	令和9年度 前期		
単 位 数	2単位	講義：2単位	時 間 数	30時間		
		実習： 単位				
授業の目的及び概要	農業に係る基礎化学、毒劇物・危険物取扱資格取得のための基礎化学に関する講座とする。					
授業の到達目標						
授業の方法						
授業内容				講義	実習	
	1				2	
	2				2	
	3				2	
	4				2	
	5				2	
	6				2	
	7				2	
	8	(中間レポート)			2	
	9				2	
	10				2	
	11				2	
	12				2	
	13				2	
	14				2	
	15	期末テスト			2	
テキスト						
成績評価の方法						
備 考						

授業科目(履修区分)	生物学 (教養科目)		担当教員	国武 陽子
対象年次	農学科1年		期 別	令和8年度 前期
単 位 数	2単位	講義：2単位 実習： 単位	時 間 数	30時間
授業の目的及び概要	本授業の目的は生命に関する詳細な知識を学ぶことだけではなく、生命を理解することを通じてこの地球の仕組みを理解すること、また、生物としての人間を理解することである。			
授業の到達目標	動植物を扱う上で必要な生物学的知識を体系的に学び理解する。特に生物と生育環境との関り、生物と人間との関りを相互作用に注目し進化的な視点をもてるようになること。			
授業の方法	講義形式で行う。			
授業内容			講義	実習
	1 生命とは何か：生物と非生物の違い、生命現象を理解する意味		2	
	2 生命をかたちづくるもの：化学的構造と細胞の仕組み		2	
	3 生命とエネルギー：生命のエネルギー源とそのゆくえ		2	
	4 基礎遺伝①：遺伝子と遺伝、メンデル遺伝		2	
	5 基礎遺伝②：DNA とタンパク質		2	
	6 ダーウィンの進化論：進化と遺伝、自然選択と環境適応		2	
	7 自主学习		2	
	8 生物と環境：資源と生物、生物と環境の相互作用		2	
	9 個体群生態学の基礎：保全の単位としての生物集団		2	
	10 動物行動学：個体レベルの動物の行動原理		2	
	11 様々な生態系① 森林生態系、草地生態系		2	
	12 様々な生態系② 都市生態系、田園生態系		2	
	13 生態系レベルの生物と環境の相互作用、物質循環		2	
	14 生物多様性とその保全：生物多様性の意味および社会的価値		2	
	15 評価試験（筆記試験）。		2	
テキスト	授業毎に資料を配布する			
成績評価の方法	定期試験（70%）、レポート課題（30%）			
備 考				

授業科目(履修区分)	保健・体育実技 (教養科目)		担当教員	諏訪 聡
対象年次	農学科2年		期 別	令和9年度 前期
単 位 数	1単位	講義：1単位 実習： 単位	時 間 数	30時間
授業の目的及び概要	スポーツは、我々の生活を楽しく豊かなものにしてくれる。スポーツの楽しさの体感、体力の向上、仲間とのコミュニケーションの拡大およびゲーム運営方法の習得の4点をねらいとして展開していく。			
授業の到達目標	スポーツの楽しさの体感、体力の向上、仲間とのコミュニケーションを拡大する。			
授業の方法	主に球技などチームスポーツを実践する。			
授業内容			講義	実習
	1 ガイダンス（体育とは）・健康の考え方・BMI 2 心肺蘇生法・応急手当 3 救急法、AED実技講習会 4 ソフトバレー（8分6チーム） 5 ソフトバレー（8分6チーム） 6 キックベースボール 7 キックベースボール 8 中間レポート 9 バトミントン 10 バトミントン 11 卓球（シングルス） 12 卓球（ダブルス） 13 卓球（団体） 14 講義：煙草と飲酒 15 期末試験		2 2 2 2 2	 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
テキスト	適時資料の配付			
成績評価の方法	講義と実技への取組みと各小テストによる総合判断とする。			
備 考	実技については、運動に適した服装であること。			

授業科目(履修区分)	英語会話 (教養科目)		担当教員	石橋 喜代子	
対象年次	農学科1年		期 別	令和8年度 後期	
単 位 数	2単位	講義：2単位	時 間 数	30時間	
		実習： 単位			
授業の目的 及び概要	Text、Toeic（プリント）を使い、real life を学ぶ。				
授業の到達 目標	Toeic 等、民間テストに挑戦できる知識を習得する。				
授業の方法	毎回、前回までの成果を全員に板書してもらい確認する。 CDにより listening を試みる。				
授業内容				講義	実習
	1	Meet and introduce people	Toeic Work	2	
	2	Spell Names and words	Toeic Work	2	
	3	Describe People	Toeic Work	2	
	4	Present your family	Toeic Work	2	
	5	A Family of Explorers	Toeic Work	2	
	6	CD Activities	Toeic Work	2	
	7	前回までの復習、板書したものをnoteにする（自主学习）		2	
	8	Jobs around worlds	Toeic Work	2	
	9	Identify jobs	Toeic Work	2	
	10	Ask about jobs	Toeic Work	2	
	11	Talk about cities	Toeic Work	2	
	12	Talk about countries	Toeic Work	2	
	13	CD Activities	Toeic Work	2	
	14	自主学习を含め復習 Pre test		2	
	15	期末試験		2	
テキスト	World English Third Edition Toeic プリント				
成績評価 の方法	授業の取り組み、出席状況、口頭実技、聞き取り実技、期末試験 進捗状況を総合的に判断。				
備 考					

イ 専門教育科目
(ア) 共通必須科目

授業科目(履修区分)	生物化学実習 (専門科目・共通必修)		担当教員	中田 菜々子、清水 敏夫、 田川 和泉、井上 雄樹、 山下 雅大、永山 春菜、 高田 伯約、田川 真子、 他各専攻教員
対象年次	農学科1年		期 別	令和8年度 通年
単 位 数	3単位	講義： 単位 実習： 3単位	時 間 数	90時間
授業の目的及び概要	農業生産を取り巻く環境の究明、植物の計測、生理生態を明らかにするために必要な実験操作を学習すると共に、専門専攻（卒業論文）に進むための基礎的な知識および研究手法の習得を目的とする。			
授業の到達目標	土壌分析技術及び顕微鏡の操作技術を習得する。その他植物及び動物を扱う上での基礎的な実験方法を理解する。			
授業の方法	実験室または圃場において実習形式で行う。必要に応じレポートを課す。			
授業内容			講義	実習
	第1回 実験の心得、顕微鏡の使い方、器具の取り扱い			4
	第2回 土壌化学性の測定			4
	第3回 虫害の同定と防除Ⅰ			4
	第4回 雑草の観察と分類			4
	第5回 花粉の発芽観察			4
	第6回 組織培養Ⅰ 培地作製			4
	第7回 虫害の同定と防除Ⅱ			4
	第8回 土壌養分及び施肥方法に関する栽培試験Ⅰ			4
	第9回 葉の構造観察及び蒸散量の測定			4
	第10回 根の染色			4
	第11回 病害の同定と防除			4
	第12回 土壌養分及び施肥方法に関する栽培試験Ⅱ			4
	第13回 組織培養Ⅱ 無菌播種／Brix 測定			4
	第14回 土壌診断処方箋の活用			4
	第15回 組織培養Ⅲ 器官培養			4
	第16回 土壌物理性の測定			4
	第17回 生長点の観察			4
	第18回～22回 土壌分析等（所属する専攻教室で実施）			20
テキスト	プリントを配布する			
成績評価の方法	レポート（50%）、授業での取組（50%）			
備 考				

授業科目(履修区分)	農場実習 (専門科目・共通必修)		担当教員	太田 和也 各専攻教室担当者	
対象年次	農学科 1 年		期 別	令和 8 年度 通期	
単 位 数	1 2 単位	講義： 単位 実習： 1 2 単位	時 間 数	3 6 0 時間	
授業の目的及び概要	農業未経験者に必要とする農業全般の基礎的な栽培・飼養技術や農業知識を習得する。また、専攻教室ごとに基本的な栽培管理を体系的に学び、後期から専攻教室に所属し、専門的な栽培管理技術習得や関連する基礎的な経営管理を学ぶ。				
授業の到達目標	専門的な農業を学ぶ上で必要な基本技術を身に付け、基礎的な経営の方法を理解している。また、研究課題を見つけ計画のイメージができています。				
授業の方法	農場実習を曜日ごとに A、B、C に分け、学生は班に分かれ A では初歩的な基礎技術の習得及び課題品目の栽培体験、B では専攻ごとで基本技術を体系的に学び、C では専攻ごとに専門分野の栽培管理・経営管理技術の習得を図る。				
授業内容				講義	実習
	【前期】 6 班に分かれ指定場所で実施 農場実習 A は共通実習や農場系の 6 専攻教室で基本的な栽培管理技術を習得する。 (雨天時は 5 班に分かれ実験系 5 専攻で基本技術を学ぶ) 【後期】 ・ 農場実習 A は前期と同様に班に分かれ指定場所で実施 (雨天時は 5 班に分かれ実験系 5 専攻で基本技術を学ぶ) ・ 農場実習 B、C は所属した専攻教室で実施 将来の進路に合わせた専攻教室に所属し、専攻教室ごとの教育目標、実習内容 (実習方法) に沿って、専門的な生産技術や経営管理手法を体系的に習得する。 【農場実習 A】 共通実習として以下の項目について実習する。 (1) 基本技術の習得 ①農作業器具、②刈り払い機、 ③作業機、④トラクター、⑤畝たて、⑥マルチ張り、 ⑦農薬散布、⑧堆肥づくりなど (2) 課題品目 (トウモロコシ) 栽培の体験 班別に播種から収穫まで一連の栽培管理を体験する。 (3) 水稻機械体系技術の習得 ①播種機、②代かき、 ③田植機、③コンバイン、④乾燥・粃摺り・調製 (4) トラクター耕耘の修練 【農場実習 B】 前期は農場系の 6 専攻教室を回り、後期は所属する専攻教室で以下の項目について実習をおこなう。				前期 180 A 60 B 60 C 60 後期 180 A 60 B 60 C 60

	(1) 基本技術の習得 栽培計画策定・ほ場準備、施肥、は種、定植、農薬散布、ほ場管理、かん水、収穫調製、販売方法など (2) 経営管理に必要な収支計算や記帳、経営分析など 【農場実習C】 前期は農場系の5専攻教室を回り、後期は所属する専攻教室で以下の項目について実習をおこなう。 (1) 農場系の各専攻教室で、各専門分野の専門的な栽培管理に係る農場実習 (2) スマート農業や生産工程管理の取組について (3) 卒業論文のテーマの決め方、関連するプロジェクト学習を実施する。		
テキスト	必要に応じ印刷資料を配布		
成績評価の方法	出席状況(20%)、作業への取組姿勢(30%)、技術の理解・習熟度(50%)		
備考			
授業科目	農場実習(作物)	担当教員	藤井 雄樹、太田和也
教育目標	作物(水稻、普通畑作物)の基礎的な知識及び栽培方法を学習し、また卒業論文に向けた品目の専門知識や体系的な栽培技術を習得する。		
実習内容	【農場実習B】 ・水稻や普通畑作物(落花生、大豆、麦など)の栽培管理技術及び経営方法の知識を学び、主な栽培品目の生産技術を体系的に習得する。 ・水稻の田植え作業及び普通畑作物の播種・定植等の栽培管理作業を行い、その品目ごとの基本的な栽培技術を理解する。 【農場実習C】 ・卒業論文に向け準備や計画作成等のプロジェクト学習を実施する。 ・専攻教室で取り組むスマート農業や農業生産工程管理を理解する。		
授業科目	農場実習(施設野菜)	担当教員	江口 菜、江澤 和哉
教育目標	施設野菜の基礎的な知識及び栽培方法を学習し、また卒業論文に向けた品目の専門知識や体系的な栽培技術を習得する。		
実習内容	【農場実習B】 ・トマトの栽培管理技術及び経営方法の知識を学び、主な栽培品目の生産技術を体系的に習得する。 ・施設野菜栽培に必要な播種・定植、収穫・出荷調製等の栽培管理作業を行い、その品目ごとの基本的な栽培技術を理解する。 【農場実習C】 ・卒業論文に向け準備や計画作成等のプロジェクト学習を実施する。 ・専攻教室で取り組むスマート農業や農業生産工程管理を理解する。		

授業科目	農場実習（露地野菜）	担当教員	佐瀬 善浩、山下 雅大
教育目標	露地野菜における栽培及び経営管理に必要な基礎知識を学習するとともに、卒業論文作成に向けて対象品目の体系的な栽培方法を習得する。		
実習内容	【農場実習B】 ・実習を通して露地野菜（果菜類、葉菜類、根菜類）の種類や品種、作型、食味について学ぶ。 ・露地野菜の栽培管理を学び、トラクターや管理機などの機械作業や病害虫防除を含む基本的な栽培技術を身につけ定着させる。 【農場実習C】 ・卒業論文（プロジェクト学習）に向けた基礎知識の習得や事前調査を実施する。 ・整理整頓や農薬の管理など、農業生産工程管理の基本を理解する。		
授業科目	農場実習（果樹園芸）	担当教員	吉田 明広、井上 雄樹
教育目標	果樹栽培における基本技術と知識を学習し、卒業論文作成のための対象品目の体系的な栽培方法を習得する。また、農業生産工程管理やスマート農業技術を通じて効率的な農業経営技術の習得を目指す。		
実習内容	【農場実習B】 ・ニホンナシを中心とした果樹の花器管理や樹体管理等の栽培管理技術及び経営方法の知識を学び、生産技術を体系的に習得する。 【農場実習C】 ・卒業論文に向け準備や計画作成等のプロジェクト学習を実施する。 ・品質管理や圃場管理に適したスマート農業の方法を理解する。 ・ブルーベリーを対象とした農業生産工程管理手法を理解する。		
授業科目	農場実習（花き園芸）	担当教員	田川 和泉、永山 春菜、 田川 真子
教育目標	花き栽培における基幹作物の栽培をととして、栽培管理の基礎、生理生態的特徴、温室などの施設管理の基本を学び、花き栽培の実践的能力を養う。また、MPS の理念やスマート農業技術を習得する。		
実習内容	【農場実習B】 ・千葉県で生産されている主要な花きについて、基本的な栽培技術・品質保持技術を習得する。 【農場実習C】 ・卒業論文の実施計画作成に向けた調査・準備を実施する。 ・花きの効率的な出荷調整作業・装飾技術を習得し、収益性の高い花き経営について学ぶ。 ・花きにおける MPS-ABC 認証・スマート農業の基本知識を習得する。		

授業科目	農場実習（畜産）	担当教員	伊藤 香葉、本多 正隆
教育目標	家畜飼養管理の基礎的な知識と技術を習得する。また、スマート畜産機器や農場 HACCP に関する知識を学び、効率的な経営技術や衛生管理技術の習得を目指す。		
実習内容	（後期） ・ 飼料給与、除糞、堆肥生産等の作業を通じて家畜、家禽の飼養管理技術を学ぶ。また、スマート畜産機器や農場 HACCP に関する知識を習得する。 ・ 自給飼料作物の栽培・調整技術を学ぶ。 ・ 体重測定、行動調査、卵質検査等を通じて卒業論文に向けた試験設計や調査項目を学び、実施計画を作成する。		
授業科目	農場実習（情報経営）	担当教員	菅澤 太地
教育目標	農業経営において必要な基礎的な知識を習得する。また、自ら考えて栽培計画を立て、実施、評価、反省まで行うことで、卒業論文の実施に向けた課題解決の考え方を醸成する。		
実習内容	【農場実習 B】 ・ 農業経営に必要な情報の集め方について学ぶ。 ・ 農産物の流通、生産におけるマーケティングの必要性について学ぶ。 ・ 主要品目の栽培技術および経営収支を理解する。 【農場実習 C】 ・ 卒業論文に向け準備や計画作成等のプロジェクト学習を実施する。 ・ 専攻教室で取り組むスマート農業や農業生産工程管理を理解する。		
授業科目	農場実習（生物工学）	担当教員	中田 菜々子
教育目標	作物の栽培や生物工学に関する基礎知識を学ぶとともに、卒業論文作成に向けて必要な生物工学的手法を習得する。		
実習内容	【農場実習 B】 ・ 農業で活用される生物工学技術の基礎知識を学ぶ。 ・ 培地作製、無菌操作、培養等の基礎的な生物工学的技術について実習を通して理解する。 【農場実習 C】 ・ 専攻教室で取り組む生物工学的課題について理解する。 ・ 農業生産工程管理について理解し実践する。 ・ 卒業論文に向けて既報の探索や予備試験、計画作成等を行う。		

授業科目	農場実習（食品加工）	担当教員	宮城 美紀子
教育目標	農産物に新しい付加価値をつけ、農業所得の向上に向ける6次産業化を学ぶ。そのため、圃場で栽培した農産物を教材として、その加工特性、加工貯蔵技術を理解する。		
実習内容	【農場実習B】 ・食品加工技術の向上、農産加工原料の特性と加工方法を習得する。 【農場実習C】 ・露地野菜アブラナ科の栽培管理技術及び経営方法の知識を学び、主な栽培品目の生産技術を体系的に習得する。 ・卒業論文に向け準備や計画作成等のプロジェクト学習を実施する。 ・専攻教室で取り組むスマート農業や農業生産工程管理を理解する。		
授業科目	農場実習（土壌肥料）	担当教員	高田 伯約
教育目標	農作物の栽培における効果的な土壌管理技術等を学習し、また卒業論文に向けた品目の基礎知識や栽培技術を習得する。		
実習内容	【農場実習B】 ・環境に配慮した土壌管理技術及び土壌診断の知識を学び、基本的な栽培技術を体系的に習得する。 ・土壌管理（化学性、物理性、生物性）に係る診断を行い、土壌診断処方箋による土壌改良技術を理解する。 【農場実習C】 ・卒業論文に向け準備や計画作成等のプロジェクト学習を実施する。 ・専攻教室で取り組むスマート農業や農業生産工程管理を理解する。		
授業科目	農場実習（病虫害）	担当教員	清水 敏夫
教育目標	基本的な栽培技術を習得し、病虫害及び天敵の発生生態の解明や総合的病虫害管理技術等を習得する。		
実習内容	【農場実習B】 ・総合的病虫害管理（IPM）技術とその実践方法を学ぶ。 ・試験方法や調査方法を習得する。 ・病虫害発生メカニズムの理解や天敵の増殖技術等を習得する。 【農場実習C】 ・卒業論文に向け準備や計画作成等のプロジェクト学習を実施する。 ・専攻教室で取り組むスマート農業や農業生産工程管理を理解する。		

授業科目(履修区分)	国際農業実習・海外情勢理解 (専門教育・共通必修)		担当教員	吉田 明広、太田 和也、 永山 春菜、高田 伯約 池邊 慧祐
対象年次	農学科1年		期 別	令和8年度 後期
単 位 数	2単位	講義： 単位 実習：2単位	時 間 数	60時間
授業の目的 及び概要	千葉県とは気候風土の異なる地域において、それぞれに発達した農業や理念について学ぶとともに、自然、歴史、文化、産業など幅広い視野を得て、異文化に対する理解力と海外に目を向けた幅広い考え方を身に付ける。また、グループ活動や交流などを通じ、コミュニケーション能力を高め、国際的な農業問題やグローバルな価値観を醸成する。			
授業の到達 目標	異国の先進的な農業や文化等の違いを知り、国際的で幅広い視野からの農業感覚を身に付ける。			
授業の方法	渡航の方法や渡航先の諸事情を知るため「海外情勢理解」講座を5限目に実施する。帰国後は視察内容をまとめ、共有するため発表会を開催する。			
授業内容			講義	実習
	1 事前研修①(渡航先の概要・実習スケジュール)			1
	2 事前研修②(加入保険・予防接種の説明について)			1
	3 事前研修③(部屋割・グループ割決め)			1
	4 事前課題④(B&S スケジュール作成)			1
	5 事前研修⑤(事前課題の作成)			1
	6 事前研修⑥(しおり配布、手荷物・預け荷物について)			1
	7 事前研修⑦(事前課題の提出・旅レジ登録、支払いについて)			1
	8 事前研修⑧(レンタル用品貸出、wifi 貸出について)			1
	9 事前研修⑨(国際電話のかけ方、海外での注意点)			1
	10 事前研修⑩(入国審査・検疫・税関について)			1
	11 事前研修⑪(持ち物、機内持込可能荷物について)			1
	12 事前研修⑫(スケジュール最終確認)			1
	13 現地視察(農業視察)			4 5
	14 研修報告発表まとめ・練習			1
	15 研修報告発表①			1
	16 研修報告発表②			1
テキスト	なし			
成績評価 の方法	実習態度(40%)・報告書(30%)及び発表(30%)で評価。 報告書の未提出は不可。			
備 考	パスポートは初回授業までに取得済とする。 視察先の資料やパンフレット等を参考図書とする。			

授業科目(履修区分)	農業派遣実習 (専門科目・共通必修)		担当教員	江口 菜、太田 和也、 中田 菜々子、清水 敏夫、 吉田 明広、井上 雄樹 吉田 早希、高田 伯約
対象年次	農学科1年		期 別	令和8年度 通期
単 位 数	3単位	講義：単位	時 間 数	90時間
		実習：3単位		
授業の目的 及び概要	千葉県内の先進農家等に派遣し、農業実習を通じて、実際の農業経営（農作業等）、農家生活を体験する。また、優れた農業者と交流することにより社会性を身につける。			
授業の到達 目標	派遣先が課す実習内容を実践するとともに予め自ら設定した課題について実習の中で学び、それらの結果を報告書としてとりまとめる。			
授業の方法	各地域の農家へ一定期間通い（または宿泊し）実習を行う。派遣先は学生の希望（品目・地域等）を聞いた上でマッチングを行い決定する。ガイダンス等で事前学習及び準備を行い、派遣先での実習を経て報告書を作成する。			
授業内容				講義
	1 学校又は自家では体験できない農業技術、農家生活等を知る 2 先進農家の農業または農村生活に対する考え方、取り組み方を学ぶ 3 先進農家の経営、技術を見て、今後の大学校で学びたい事、学ぶべきことを見つける 4 農業及び農村生活の良さ、厳しさを体得する 5 農業社会の人脈を広げる 6 挨拶、礼儀、報告・連絡・相談等の社会人マナーの実践			実習 90
テキスト	「農業派遣実習の手引き」等の指導資料 「農業派遣実習記録簿」			
成績評価 の方法	以下の項目の達成度から総合的に評価する 課題設定、定期報告書・農業派遣実習記録簿・レポートの提出、実習中の学習態度及び生活態度、農家及び農業事務所等の評価			
備 考				

授業科目(履修区分)	作物・園芸学概論 (専門教育・共通必修)		担当教員	山下 雅大
対象年次	農学科1年		期 別	令和8年度 前期
単 位 数	1単位	講義：1単位 実習： 単位	時 間 数	15時間
授業の目的及び概要	円滑に農場実習に参加できる最低限の基礎知識を、本講義により早期に習得する。また、作物・園芸生産に関する基礎知識・基礎技術を身につけるとともに、栽培を取り巻く生理生態、環境について修得し、応用できる能力の基礎を学習する。 また、スマート農業など、現在の農業生産の方向性について理解する。			
授業の到達目標	農業の学習の基礎となる面積・収量計算の習得 作物・園芸作物の分類と原産地、栽培に関わる生態生理の習得			
授業の方法	授業内容に沿って講義を実施する。毎回、課題または小テストを課し、授業内容の理解を深める。			
授業内容			講義	実習
	1 農業に関する基礎知識		1	
	2 農業で必要となる単位、収量や栽培面積の計算		1	
	3 栽培の起源、作物・園芸作物の分類		1	
	4 作物・園芸作物の原産地 品種の分化		1	
	5 作物・園芸作物の生態生理と栽培への応用Ⅰ		1	
	6 作物・園芸作物の生態生理と栽培への応用Ⅱ		1	
	7 農業生産の展望 期末試験		1	
テキスト	必要に応じて資料を配布			
成績評価の方法	筆記試験の成績(50%)、小テストの成績及び課題の提出状況(40%)、出席状況及び授業態度(10%)			
備 考				

授業科目(履修区分)	植物防疫概論 (専門教育、共通必修)		担当教員	内田 雅樹
対象年次	農学科1年		期 別	令和8年度 前期
単 位 数	1単位	講義：1単位 実習： 単位	時 間 数	15時間
授業の目的及び概要	作物保護の概要について知り、その内容を理解する。植物防疫行政および農薬行政について知り、その働きを理解するとともに、関係法令の概略を学ぶ。			
授業の到達目標	農薬に関する一般知識を身につけ、農薬のリスク評価と安全性や農薬の安全・適正使用について理解を深める。最後に農薬の施用技術について学ぶ。			
授業の方法	パワーポイントを活用した講義、毎回、小テストを行い、知識の定着を図る。			
授業内容			講義	実習
	1 作物保護と農薬		2	
	2 植物防疫行政 (農業と植物防疫、組織体制、病虫害発生予察事業、防除事業、農林水産航空事業、植物検疫)		2	
	3 農薬行政・関係法令解説 (農薬の歴史、農薬行政の概況、農薬の登録、関係法令解説)		2	
	4 農薬の一般知識 (農薬の名称、農薬の分類、農薬の一般知識、物理化学的性状、作用機構(殺虫剤、殺菌剤、除草剤、植物成長調整剤)、薬剤抵抗性、農薬のリスク評価と安全性、農薬の開発、農薬の生産と流通)		2	
	5 農薬の安全・適正使用		2	
	6 総合的病虫害・雑草管理		2	
	7 期末試験		2	
テキスト	「農薬概説2024」(日本植物防疫協会)			
成績評価の方法	授業への出席と期末試験により評価する			
備 考	農薬概説「第8章 施用技術」：農場実習で履修 " 「第9章 病虫害・雑草とその防除」：生物化学実習で履修			

授業科目(履修区分)	土壌肥料概論 (専門教育・共通必修)		担当教員	高田 伯約	
対象年次	農学科1年		期 別	令和8年度 前期	
単 位 数	1単位	講義：1単位 実習： 単位	時 間 数	15時間	
授業の目的及び概要	土壌の成り立ちと諸特性、植物の栄養素としての肥料特性と施肥効果、作物の生産性向上に係る土壌管理の基礎知識を習得することを目的とする。				
授業の到達目標	植物生育に必要な肥培管理及び土壌改良に係る基礎知識を習得する。				
授業の方法	土壌肥料に係る知識を習熟するための講義とし、理解度を小テスト及び期末テストにより確認する。				
授業内容				講義	実習
	1 土壌の分類Ⅰ（世界の土壌）、土壌の生成			1	
	2 土壌の分類Ⅱ（日本・千葉の土壌）			1	
	3 土壌の特性Ⅰ（物理性・生物性）			1	
	4 土壌の特性Ⅱ（化学性）			1	
	5 土壌診断と土壌改良			1	
	6 施肥設計			1	
	7 期末試験			1	
テキスト	「土と施肥の新知識」（渡辺和彦ほか 全国肥料商連合会）				
成績評価の方法	小テスト（6回）、期末試験（1回）を実施する。 期末試験（40%）、小テスト（60%）				
備 考					

授業科目(履修区分)	畜産学概論 (専門科目・共通必修)		担当教員	前之園 孝光
対象年次	農学科1年		期 別	令和8年度 前期
単 位 数	1単位	講義：1単位 実習： 単位	時 間 数	15時間
授業の目的及び概要	畜産学の基礎と概要について学習し、各家畜の特徴と飼育の基本技術、生産コストを学習する。また、人間の栄養と畜産物・家畜との関わりについても理解を深め、学生生活や社会生活を豊かにする。			
授業の到達目標	各家畜（乳牛、肉牛、豚、鶏）の飼育と特徴、生産コストの具体的な内容を理解し、畜産学を幅広い視点から捉える、客観的な判断力を養う。			
授業の方法	復習問題。動画にて基礎知識を習得。教科書による授業。質疑応答			
授業内容			講義	実習
	1 人間と食生活、畜産物、家畜の役割 肉、牛乳、卵の栄養と世界の食料事情		2	
	2 牛の特徴と品種、乳牛の繁殖、一生 肉牛の一生、飼養技術、繁殖技術		2	
	3 豚の育種、繁殖、飼養技術 鶏の育種、繁殖、飼養技術		2	
	4 家畜の飼料、家畜の糞尿利用 家畜の病気と獣医師の役割		2	
	5 日本の畜産の特徴 酪農、肉牛生産コストと経営		2	
	6 養豚、養鶏生産コストと経営 畜産物の流通と消費動向		2	
	7 世界の畜産と国際貿易 6次産業化、畜産経営と情報利用		2	
	8 家畜の福祉と耕畜連携、期末試験（レポート提出）		1	
テキスト	教科書「図解 知識ゼロからの畜産入門」（田島淳史監修 家の光協会） 必要に応じ、スライド、動画を活用。適宜、プリントを配布。			
成績評価の方法	授業中の態度と取り組み（15%）、ノートの提出とその評価（10%） 各単元テストとレポート（75%）。			
備 考	【事前学習】教科書「図解 知識ゼロからの畜産入門」の各単元に 関係する頁を読み必要な事柄を調べ、ノートに記載する。 【事後学習】授業中に作成したノートとテキスト、配布プリントを 復習し必要に応じてノートを修正し完成する。			

授業科目(履修区分)	農業経営・経済学概論 (専門科目・共通必修)		担当教員	菅澤 太地	
対象年次	農学科1年		期 別	令和8年度 前期	
単 位 数	2単位	講義：2単位 実習： 単位	時 間 数	30時間	
授業の目的及び概要	農業経営学・経済学概論は、農業経営を取り巻く環境の変化に対応するため、農業経営と農業経済の基本概念と基礎理論を理解するとともに、農業経営者として必要な知識と考え方を習得する。				
授業の到達目標	農業経営者として必要な基礎的な知識の習得				
授業の方法	授業内容に沿った講義を実施し、演習問題および解説により理解を深める。必要に応じてグループワークを行う。				
授業内容				講義	実習
	1 農業経営・経済とは			2	
	2 世界から見た日本農業の現状			2	
	3 農産物の流通について 【小テスト】			2	
	4 経営資源の活用と調達方法			2	
	5 意思決定、経営環境マネジメント (SWOT 分析演習)			2	
	6 経営理念、目標、戦略の考え方 【小テスト】			2	
	7 中間レポート			2	
	8 農業所得の考え方			2	
	9 原価計算、損益分岐点、線形計画法			2	
	10 経営の多角化、集落営農などの組織化【小テスト】			2	
	11 農業法人(会社法人と農事組合法人)			2	
	12 収益と税務関係			2	
	13 複式簿記 【小テスト】			2	
	14 経営者マインド、復習			2	
	15 【期末テスト】			2	
テキスト	毎回、資料を配布する。				
成績評価の方法	小テストを含む筆記試験(70%)、中間レポート(10%)、出席状況・授業態度(20%)で評価する。				
備 考	参考図書「基礎から学ぶ農業経営論」(実教出版) 「食料・農業・農村の動向」(農林水産省)				

授業科目(履修区分)	農業会計論 (専門教育 共通必修)		担当教員	井上 敬裕	
対象年次	農学科 1 年		期 別	令和 8 年度 後期	
単 位 数	2 単位	講義： 2 単位 実習： 単位	時 間 数	3 0 時間	
授業の目的及び概要	複式簿記の基礎を理解する 農業経営と会計制度の関係性を理解する				
授業の到達目標	農業簿記検定 3 級に合格する				
授業の方法	テキストの沿った内容をパワーポイントを用いて講義				
授業内容				講義	実習
	1 簿記とは			2	
	2 農業簿記の特徴			2	
	3 簿記一巡の手続き			2	
	4 勘定科目			2	
	5 収益・費用の記帳方法 1			2	
	6 収益・費用の記帳方法 2			2	
	7 流動資産および流動負債など 1			2	
	8 流動資産および流動負債など 2			2	
	9 流動資産および流動負債など 2			2	
	10 固定資産			2	
	11 中間レポート			2	
	12 決算書の作成			2	
	13 決算書の作成			2	
	14 決算書の作成			2	
	15 期末試験			2	
テキスト	農業簿記検定教科書 3 級第 2 版 (大原出版/2022 年) 農業簿記検定問題集 3 級第 2 版 (大原出版/2021 年)				
成績評価の方法	中間試験:25%、期末試験:25%、授業への参加・取り組み・発表:50%				
備 考					

授業科目(履修区分)	農業生産工程管理論 (専門教育 共通必修)		担当教員	田上 隆多 田上 隆一 白川 洋輔	
対象年次	農学科2年		期 別	令和9年度 後期	
単 位 数	2単位	講義：2単位 実習： 単位	時 間 数	30時間	
授業の目的及び概要	GAP（適正農業実践）を基礎から学び、農業生産における食品安全、環境保全、労働安全、人権・福祉、経営管理の視点を統合的に理解することを目的とする。講義と演習を通じて、生産工程における課題の把握、評価及び改善の基礎力を養う。				
授業の到達目標	・ GAPの基本概念、意義、構成要素を理解し、説明できる。 ・ 農業生産における食品安全、環境保全、労働安全、人権・福祉、経営管理の主要論点を理解できる。 ・ 生産現場における主な課題やリスクを発見し、説明できる。 ・ 生産工程や農場の状況を踏まえて、簡易なリスク評価と改善方向の提示ができる。				
授業の方法	講義を基本に、演習、事例検討、現場見学、小テスト等を組み合わせて実施する。				
授業内容	主な講義内容			講義	実習
	1	ガイダンス及びGAPの基本概念の理解		2	
	2	GAPの意義、持続可能性、農業政策、認証・保証制度、産地としての取組み		2	
	3	GAPマネジメントの構造と農場管理の基本的な考え方		2	
	4	GAP各論Ⅰ（労務管理、労働安全、施設・資材管理）		2	
	5	GAP各論Ⅱ（土壌管理、養分管理、病害虫管理、農薬取扱い、水管理）		2	
	6	GAP各論Ⅲ（食品安全、衛生管理、販売管理及び畜産分野の要点）		2	
	7	写真及び事例を用いたリスク発見演習		2	
	8	自習：農業生産工程管理論と他科目との関わりの整理		2	
	9	中間テスト及び前半内容の解説		2	
	10	農場・関連施設の現場見学		2	
	11	現場見学の振り返りと気づきの整理		2	
	12	リスク評価の基本とリスク評価演習		2	
	13	ビデオを用いた模擬農場評価演習		2	
	14	聞き取りの技法を踏まえた農場聞き取り演習		2	
	15	総括及び海外事例による農業生産工程管理の考察		2	
	※2・3限連続授業あり（日程は別途連絡）				
テキスト	「日本GAP規範 第2版」 監修：一般社団法人日本生産者GAP協会／編集：株式会社AGIC／2021年9月15日 第2版1刷発行				

	適宜、資料を配布する。
成績評価の方法	平常点（授業への参加状況、演習及び発表への取組み状況）、課題（自習課題、演習課題）、中間テスト、期末レポートにより総合的に評価する。評価配分は以下の通りとする。 ○平常点 20% ○課題 20% ○中間テスト 25% ○期末レポート 35%
備 考	

授業科目(履修区分)	流通マーケティング論 (専門科目・共通必修)		担当教員	中山 正敏	
対象年次	農学科1年		期 別	令和8年度 後期	
単 位 数	2単位	講義：2単位 実習： 単位	時 間 数	30時間	
授業の目的及び概要	農産物の流通の実態を把握する。 基礎的なマーケティングを学び、食と農のつながり方を習得する。 事例研修を通して、実際の農産物の取引や農家・農協・法人等の具体的な販売方法等の取組みを学ぶ。				
授業の到達目標	消費者・実需者・取引先など顧客に対する提案力の向上や取組み（売り方）のスキルアップを図る。				
授業の方法	配付資料を使用、パワーポイントにて内容・説明を補完する。				
授業内容				講義	実習
	1 農産物生産・流通と消費を結ぶ流通の役割			2	
	2 取引先を知る（スーパーマーケット）			2	
	3 “ （生協・契約栽培等）			2	
	4 売り場を考える（通販・直売所・インターネット・圃場販売など）			2	
	5 “			2	
	6 “			2	
	7 小テストとレポート			2	
	8 マーケティングの基礎知識			2	
	9 “ （農業にマーケティングの発想を）			2	
	10 “ （実習・作業）			2	
	11 農協の販売事業とマーケティング			2	
	12 ブランドを考える。6次産業化を考える。			2	
	13 試験			2	
	14 販売戦略を考える			2	
	15 試験解説とまとめ			2	
テキスト	講師配布資料 ＜参考書＞農業のマーケティング教科書				
成績評価の方法	授業参加度、試験・小テスト、実習等				
備 考					

授業科目(履修区分)	農業機械実習Ⅰ (専門教育・共通必修)		担当教員	櫻井 富久、内山 和也、 中島 勇貴、板倉 智貴	
対象年次	農学科 1 年		期 別	令和 8 年度 通期	
単 位 数	3 単位	講義： 1 単位 実習： 2 単位	時 間 数	8 0 時間	
授業の目的 及び概要	農業機械実習Ⅰは、農業機械の安全な操作方法と効率的に利用するための知識と技術を学ぶ。農業機械実習Ⅰでは、1 農業機械基本研修または、2 農業機械専門研修を選択する。				
授業の到達 目標	農業機械基本研修では、利用機会の多い農業機械について、安全な農作業実践ポイントを確認し、機械の構造、効率的操作方法を習得させる。 農業機械専門研修では、乗用型トラクターについて、安全な道路走行技術習得から大型特殊自動車免許(農耕車限定)を取得させる。				
授業の方法	パワーポイントや VR 機器を活用した講義、研修コースやほ場での実技練習により知識習得を図る。				
授業内容				講義	実習
	<u><農業機械に関する基礎知識> ※合同研修</u> 1 スマート農業対応の最新農業機械情報 1 日間 2 農作業安全、農業機械の基礎知識 2 日間 ・ 農業機械の基礎 ・ 農業機械の構造及び機能と取扱い、点検整備と簡易な修理 ・ 農業機械の点検整備用機器と使用方法 ・ 農業機械の作業安全 <u>※農業機械基本研修、農業機械専門研修いずれかを受講</u> <u><農業機械基本研修> 7 日間</u> 1 農作業事故の実態と防止対策(VR 機器)、農業機械の基礎知識①(仕業点検・整備、トラクター走行、草刈機) 2 農業機械の基礎知識② (仕業点検・整備、トラクター走行、草刈機) 3 農業機械の基礎知識③ (大型トラクター走行) 4 農業機械の操作実践① (歩行型トラクター・ロータリー耕操作、作業機の着脱) 5 農業機械の操作実践② (歩行型トラクター・ロータリー耕操作、作業機の着脱) 6 農業機械の実技試験① (仕業点検、ロータリー耕) 7 農業機械の実技試験②(同)、筆記試験			1 6	8

	＜農業機械専門研修＞ 7日間 1 トラクターと農業機械の安全走行について（講義） トラクターの基本操作（乗降、前後進、周回） 研修コース説明、停止線停止要領、デモ走行 2 大型特殊免許技能試験コースを想定した走行練習① （内輪差の通過方法） 免許センター技能試験コース下見 3 大型特殊免許技能試験コースを想定した走行練習② （信号通過方法） 4 大型特殊免許技能試験コースを想定した走行練習③ （12km/h 走行及び右折を想定した車線変更方法） 5 大型特殊免許技能試験コースを想定した走行練習④ （見通し悪い道路から方向転換進入、他の試験車両を想定した走行） 6 技能試験を想定したコース走行試験 コース間違いした場合の対応（説明、デモ走行） 運転免許申請書の作成 7 大型特殊自動車免許（農耕車限定）技能試験の受験 （千葉運転免許センター）		8 8 8 8 8 8 8
テキスト	農業機械士技能検定試験テキスト《第6版》 農業機械士技能検定試験問題例題集（一般社団法人日本農業機械化協会編）		
成績評価の方法	1 農業機械基本研修受講者 農業機械士技能検定試験に準ずる農業機械に関する学科及び実技試験成績 70%、農業機械実習への取組み姿勢 30%の合計点で評価する。 2 農業機械専門研修受講者 技能試験を想定したコース走行試験 70%、農業機械実習への取組み姿勢 30%の合計点で評価する。		
備考	農業機械専門研修は、大型特殊自動車免許の受験時に普通自動車運転できる免許の所持が条件となる。		

授業科目(履修区分)	食品学 (専門科目・共通必修)		担当教員	柴野 幸雄
対象年次	農学科2年		期 別	令和9年度 後期
単 位 数	2単位	講義：2単位 実習： 単位	時 間 数	30時間
授業の目的及び概要	食品中の個々の成分の性質や機能を理解するとともに、食品を製造するための基礎的な知識、技術を学習することにより、品質と生産性の向上を図る能力と態度を養う。			
授業の到達目標	食品の基本的特性を理解し、それを生かした加工食品の製造に関する基礎的な知識を身につける。 徹底した品質管理や衛生管理による安心・安全な食品供給の重要性を理解する。			
授業の方法	講義 毎回、プリント(課題)を配布し、知識の定着を図る。			
授業内容			講義	実習
	1 食品製造の意義 食品産業の現状と動向		2	
	2 食品の分類・分類法		2	
	3 日本食品標準成分表とエネルギー計算		2	
	4 植物性食品・動物性食品		2	
	5 加工食品(油脂類 調味料・香辛料類)		2	
	6 その他の加工食品(組み立て食品 保健機能食品)		2	
	7 自主学習(課題学習)		(2)	
	8 栄養素の種類と働き 炭水化物・脂質・タンパク質		2	
	9 栄養素の種類と働き 無機質・ビタミン		2	
	10 微生物の生育と加工食品		2	
	11 デンプンの構造とその変化 油脂の性質と脂肪酸		2	
	12 酵素とその作用 食品中の主な色素とその性質		2	
	13 食品加工における加熱殺菌 加熱食品における表示義務		2	
	14 食品と食品衛生 食中毒		2	
	15 期末試験		(2)	
テキスト	「食品製造」(実教出版)、「新食品成分表」(東京法令出版)			
成績評価の方法	レポート(課題)・期末試験を実施する。 期末試験(70%) 授業への取り組み・レポート(30%)により評価する。			
備 考				

授業科目(履修区分)	6次産業化論・実習 (専門科目・共通必修)		担当教員	宮城 美紀子・山下 富士子 柴野 幸雄・今井 由紀子	
対象年次	農学科2年		期 別	令和9年度 通年	
単 位 数	3単位	講義： 1単位 実習： 2単位	時 間 数	75時間	
授業の目的及び概要	農産物の経済性、保存性を高めるために、必要な知識と技術を習得し、食品の特性と加工方法及び貯蔵の原理を理解するとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を身に付ける。				
授業の到達目標	・ 6次産業化の意義や事例等を理解する。 ・ 加工技術を習得し、販売の基本的知識を得る				
授業の方法					
授業内容				講義	実習
農学科2年（前期） 【 】内は講義内容					
1 ガイダンス（実習内容及び加工室の利用方法、衛生管理 6次産業化の意義について）			4		
2 米の加工（おこわ）、【食品営業にかかわる営業許可】			1		3
3 小麦粉の加工（ロールパン）、【パンの原料とその役割】			1		3
4 膨らむ原理 膨張剤①（重曹の性質を利用した技術） 卵の加工、【販売するときの表示】			1		3
5 膨らむ原理 卵白の起泡性（米粉シフォンケーキ） 【製造原価計算】			1		3
6 長く保存する原理（果実の加工） ブルーベリージャム 【ジャムのゼリー化3要素・瓶詰め殺菌】			1		3
7 長く保存する原理（野菜の加工） 玉ねぎのたれ 【食中毒の予防】			1		3
8 麺の製造① うどん【原料によるめんの分類と特徴、手打ちうどん、手打ちそばの製造法】			1		3
9 豆類の加工（豆腐の製造技術） 【大豆の加工用途、豆類の栄養成分の比較】			1		3
10 乳の加工（アイスクリーム・ヨーグルト） 【加工室の5SとHACCP】			1		3
11 小麦粉の加工（メロンパン） 大掃除					4
農学科2年（後期）					
12 膨らむ原理②（ベーキングパウダーを利用した技術） 【販売するときのパッケージ】			1		3
13 長く保存する原理（果実の加工） 梨ジャム 【果樹経営における6次産業化事例】			1		3
14 課題制作（6次産業化に向けての取り組み）					4

	15 課題発表会 まとめ		4
テキスト	適時プリントを配布する 「食品製造」(実教出版)「新食品成分表」(東京法令出版)		
成績評価 の方法	実習態度及び出席状況 (20%)、レポートの提出・内容 (30%) 確認テスト or 課題発表会 (50%)		
備 考			

授業科目(履修区分)	現地視察・実践実習 (専門科目・共通必修)		担当教員	各専攻教室
対象年次	農学科1年 農学科2年		期 別	令和8年度 通年 令和9年度 通年
単 位 数	1単位	講義： 単位 実習： 1単位	時 間 数	30時間
授業の目的 及び概要	各専攻教室で、現地の大規模経営農家との連携により、本校では学ぶことが難しい大型機械体系や環境制御施設などを視察や先進技術の実践として作業を体験する。			
授業の到達 目標	現場レベルの実践的な知識・技術・管理能力を知る。			
授業の方法	専攻教室毎に対象を決めて実施する。			
授業内容			講義	実習
	1 視察計画：視察先の選定、目的、調査分担、記録方法 2 現地視察調査（大規模機械体系、経営管理手法の習得） 3 結果：現地視察のまとめ 4 中間レポート 5 実習計画：実習先の選定、実習内容、記録方法 6 現地実習（実践的に先進技術を習得） 7 結果：現地実習のまとめ 8 期末試験（視察・実習成果の発表）			2 8 2 4 2 8 2 2
テキスト	視察や実習に必要な資料を配布			
成績評価 の方法	参加姿勢(50%)、レポート内容・発表(50%)			
備 考				

授業科目(履修区分)	キャリアサポート実習 キャリア体験実習コース (専門教育・共通必修)		担当教員	井上 雄樹、高田 伯約、 山下 雅大、田川 真子、 中田 菜々子
対象年次	農学科1年		期 別	令和8年度 通期
単 位 数	4単位	講義： 単位 実習： 4単位	時 間 数	120時間
授業の目的 及び概要	農業法人や農業関連企業等への視察訪問や講演の受講により、農業及び関連産業に対する見識を高め、職業選択の一助とする。 また、社会人として必要な知識に向けた講義を行い、就農・就職に対する理解促進を図る。			
授業の到達 目標	農業関連の就職先について理解する			
授業の方法	授業の目的及び概要に従い講義及び視察を行う。			
授業内容			講義	実習
	1 就農・就職について			4
	2 進路希望調査①			4
	3 農業派遣実習ガイダンス①(希望調査)			4
	4 意見発表原稿作成			4
	5 農業関連企業 [M&B フローラ]			4
	6 市農業関連機関 [市原市農業センター]			4
	7 農業法人 [百目木営農組合]			4
	8 農業法人 [切替農園]			4
	9 農業法人 [さんたファーム]			4
	10 農業関連企業 [株式会社やます]			4
	11 就職先としての農業法人について			4
	12 農業派遣実習担当者会議			4
	13 農業法人 [濱田農場]			4
	14 農業関連企業 [イオンアグリ創造柏農場]			4
	15 進路希望調査②/講演 [新規参入者]			4
	16 職業適性検査/講演 [農業事務所]			4
	17 農業関連団体 [JA ちばみどり]			4
	18 農業関連企業 [朝日アグリ]			4
	19 スーツ着こなしセミナー、労働法セミナー			4
	20 農業関連企業 [ヤンマーアグリジャパン株式会社]			4
	21 農業関連企業 [株式会社丸山製作所]			4
	22 農業関連企業 [ヴィルモランみかど]			4
	23 試験研究機関 [日本植物調節剤研究協会]			4
	24 農福連携 [福祉楽団]			4
	25 卸売市場 [成田市場]			4
	26 就農・就職活動企業説明会①			4

	27 就農・就職活動企業説明会②		4
	28 就農・就職活動企業説明会③		4
	29 就農・就職活動企業説明会④		4
	30 進路希望調査③/就農・就職活動企業説明会⑤		4
テキスト	視察・講演に係る資料やパンフレット等		
成績評価の方法	レポート（100%）		
備考			

授業科目(履修区分)	キャリアサポート実習 農業経営改善演習コース (専門教育・共通必修)		担当教員	山本茂樹、保坂信久、 山下雅大
対象年次	農学科 1 年		期 別	令和 8 年度 通期
単 位 数	4 単位	講義： 単位 実習： 4 単位	時 間 数	1 2 0 時間
授業の目的 及び概要	卒業後の就農に向けた準備として、営農計画の作成や主に栽培する品目の選定及び栽培の実践、販売及び収支結果の分析と次作に向けた改善の演習			
授業の到達 目標	就農に向けた営農計画の立て方が分かり、主に栽培する品目を実際に栽培し出荷販売までの管理作業ができ、その経営的な評価と改善ができる。			
授業の方法	営農計画の樹立と栽培実践した品目の経営分析を演習			
授業内容	1～14 キャリアサポート実習キャリア体験実習コースと 合同実施 15 農業経営改善演習 16 自主栽培（計画の作成と準備） 17 “ （ほ場準備、施肥、定植） 18 “ （保温資材の活用） 19 “ （支柱、誘引、ネットの使い方） 20 “ （病害虫の発生と農薬散布） 21 “ （栄養診断と追肥の方法） 22 “ （有害鳥獣対策の方法、電気柵の設置） 23 “ （市場調査） 24 “ （経費の集計、損益分岐点分析） 25 “ （収穫時期の判別と販売計画） 26 収穫・出荷調製と委託販売 27 生産結果の分析、収支結果の分析 28 利益と所得目標、改善すべき項目と対策 29 就農後の営農計画の作成 30 成果発表（自主栽培の結果と就農計画）		講義	実習 6 4
テキスト				
成績評価 の方法	参加姿勢 30%、中間レポート 30%、期末テスト 40%			
備 考				

授業科目(履修区分)	キャリア基礎講座・就活実践 (専門科目・共通必修)		担当教員	大島 啓孝、佐藤 真理子、 加瀬 和美、土屋 浩之、 中村 恭子	
対象年次	農学科1年		期 別	令和8年度 後期	
単 位 数	2単位	講義：2単位 実習： 単位	時 間 数	30時間	
授業の目的 及び概要	就職・就農を含め「卒業する自分」をイメージして、早くから進路を考え、 将来の目標へ向け、今できることに自立的に取り組む姿勢を育む。 社会で求められるコミュニケーション能力、チームワーク能力を理解し身に 付ける。				
授業の到達 目標	就職・就農に関する知識・情報を活用し、考え行動する選択肢を増やし、自 立的に積極的に行動することができることを目指す。				
授業の方法					
授業内容	1 オリエンテーション 2 自己分析Ⅰ 自分の強みを知る 3 自己分析Ⅱ 強みから自己PRをつくる 4 自己分析Ⅲ 会社に応じた自己PRを考える 5 就職活動 求められる人材を考える 6 採用試験 採用試験の多様性と目的を知る 7 ビジネスマナー 会社訪問に必要なビジネスマナーを知る 8 企業へのアプローチ 求人情報の見つけ方 9 自己分析Ⅳ 自己PRとエピソードを考える 10 履歴書Ⅰ 履歴書の基礎理解 11 履歴書Ⅱ 履歴書と自己PR 12 履歴書Ⅲ 履歴書を完成させる 13 面接対策Ⅰ 採用試験と面接の関連性を知る 14 面接対策Ⅱ 面接対策と自己PR 15 面接対策Ⅲ まとめ 模擬面接練習			講義	実習
テキスト	授業の都度配布する				
成績評価 の方法	「社会人基礎力」の取得状況とワークショップによるチームワークの視点で の評価を取り入れ、授業態度・姿勢、授業中に発揮できたこと、授業での提 出物(履歴書他)の完成度について評価する。				
備 考					

授業科目(履修区分)	キャリア基礎講座(就農計画策定コース) (専門科目・共通必修)		担当教員	大島 啓孝、佐藤 真理子、 土屋 浩之、中村 恭子、 加瀬 和美、江口 菜
対象年次	農学科 1 年		期 別	令和 8 年度 後期
単 位 数	2 単位	講義：2 単位 実習： 単位	時 間 数	3 0 時間
授業の目的 及び概要	就職・就農を含め「卒業する自分」をイメージして、早くから進路を考え、将来の目標へ向け、今できることに自立的に取り組む姿勢を育む。 社会で求められるコミュニケーション能力、チームワーク能力を理解し身に付ける。 なお、就農計画策定コースについては、親元就農を希望する学生や雇用就農後新規就農を希望している学生が、将来、就農するために必要な制度や準備内容などについて、自らが情報を収集・理解し、行動を起こし、就農計画を策定できる能力を身に付ける。			
授業の到達 目標	就職・就農に関する知識・情報を活用し、考え行動する選択肢を増やし、自立的に積極的に行動することができることを目指す。 就農に必要な内容を理解し、就農計画を策定できることを目指す。			
授業の方法	パワーポイントを活用した講義。毎回、グループワークを通じて、自分で考え行動する習慣を身に付ける。 就農計画の策定に参考となる事例研究を行う。 (※就農した方のお話を聞いて就農計画策定の参考に資する)			
授業内容			講義	実習
	1 オリエンテーション		2	
	2 コミュニケーション理解		2	
	3 会社理解Ⅰ 会社が求める人材像を理解する		2	
	4 自己分析Ⅰ 自分の強み、個性を知る		2	
	5 自己分析Ⅱ 自分の強みが発揮される場面を考える		2	
	6 自己分析Ⅲ 自己PRを作る		2	
	7 会社理解Ⅱ 会社が求める人材像を描く		2	
	8 キャリアビジョンⅠ 自分の働く価値観を考える		2	
	9 キャリアビジョンⅡ 自分の将来像を描いてみる ※		2	
	10 履歴書Ⅰ 履歴書の様式を理解する		2	
	11 履歴書Ⅱ 履歴書を書いてみる ※		2	
	12 ビジネスマナー ビジネスマナーの基本を理解する		2	
	13 面接対策Ⅰ 採用試験と面接の関連性を知る		2	
	14 面接対策Ⅱ 面接対策と自己PR ※		2	
	15 面接対策Ⅲ まとめ 模擬面接練習		2	
	※ 上記 1～15 の内、3 回を就活実践コースと並行して、			

	別室で開講する。 [就農計画策定コース] 1 就農について ・就農の種類、就農の状況、就農に必要なこと ・目指す就農の内容について考える ・就農計画について ・次回までに考えておくこと（どんな農業をやりたいのか、それには何が必要なのか、経営主と打合せを行い経営状況を把握する） 2 就農計画の策定について ・事例研究（※就農をした方等のお話を聞いて就農計画策定の参考に資する） ・次回までに行うこと（目指す農業と準備が必要なことを考え、就農計画を策定する。次回開催までに事前に策定した就農計画を提出し、内容を確認して、3回目の授業で指導を行う。） 3 就農及び就農後の支援策について ・就農計画の内容のブラッシュアップ。 ・就農計画から今後、卒業までに必要なこと、習得しておく必要があることを考える。 ・就農及び就農後の支援策	2	
テキスト	授業の都度配布する		
成績評価の方法	「社会人基礎力」の取得状況とワークショップによるチームワークの視点での評価を取り入れ、授業態度・姿勢、授業中に発揮できたこと、授業での提出物（授業レポート、履歴書他）の完成度について評価する。		
備考			

(イ) 共通選択科目

授業科目(履修区分)	農業環境概論 (専門科目・共通選択)		担当教員	多田 充
対象年次	農学科 1 年		期 別	令和 8 年度 前期
単 位 数	2 単位	講義：2 単位 実習： 単位	時 間 数	30 時間
授業の目的及び概要	農業が持続的に発展するためには取り巻く自然環境や社会環境との環境との調和が必要であることを理解するとともに、その調和を維持するために必要な、環境配慮の基礎的能力を養う。			
授業の到達目標	農業と環境（自然、技術を含む社会）の学びを通じて、環境問題が農業に与える影響ならびに農業が環境に与える影響を認識し、適応する行動をとる準備ができる。ワークショップを通じて自ら考え、問題の構造に気づく方法を知る。			
授業の方法	パワーポイントを使用した講義およびワークショップ、巡検をおこなう。レスポンスペーパーならびに期末試験によって効果測定をする。			
授業内容	1 オリエンテーション ワークショップ「食べ物のネットワーク図づくり」 2 ワークショップふりかえり 3 農業と水環境（1）バーチャルウォーターとは 4 農業と水環境（2）水資源危機と農業 5 農業と水環境（3）精密農業による環境負荷低減 6 巡検（1）準備：地形図のみかた 7・8 巡検（2・3）実地見学 9 巡検（4）自習：ふりかえりレポート作成 10 ワークショップ「温暖化と農業」 11 ワークショップふりかえり 12 農業と自然環境・社会環境・技術環境の相互関係性 13 農業と環境問題（1）物質・エネルギー・生物多様性 14 農業と環境問題（2）社会問題・倫理・社会的公正 15 期末試験		講義	実習
			2	
			2	
			2	
			2	
			2	
			2	
			2	
			2	
			2	
			2	
			2	
			2	
			2	
			2	
テキスト	プリントを配布する。			
成績評価の方法	課題（グループワーク等）、レポート、期末試験を実施する。評価配分は以下の通りとする。 ○期末試験（50%） ○授業内における課題およびレポート（30%） ○授業への参加・取組状況（20%）			
備 考				

授業科目 (履修区分)	生物統計学 (専門科目・共通選択)		担当教員	溝田 俊之
対象年次	農学科 1 年		期 別	令和 8 年度 後期
単 位 数	2 単位	講義：2 単位 実習： 単位	時 間 数	3 0 時間
授業の目的 及び概要	学術分野だけでなく、ビジネスの現場においても統計学の重要さが増している。古典的な推測統計学の基礎を学ぶとともに、手法を使えるように Excel を用いて記述統計学から初歩的な推測統計学を学ぶ。			
授業の到達 目標	1) データの整理・要約方法を身につける。 2) データの要約やグラフからデータの傾向について考察できる。 3) 基礎的な推測統計学が理解できる。			
授業の方法	パワーポイントによる講義及び Excel による演習。			
授業内容			講義	実習
	1 統計学の概要と考え方 母集団と標本		2	
	2 情報の可視化 グラフの作り方		2	
	3 標本集団の特性の捉え方 代表値とばらつき		2	
	4 2 変数の関係 相関係数		2	
	5 度数分布とヒストグラム		2	
	6 度数分布から確率分布へ 確率密度関数		2	
	7 正規分布の特徴 標準偏差と割合		2	
	8 中間レポート		2	
	9 区間推定		2	
	10 χ^2 (カイ自乗) 分布と F 分布		2	
	11 仮説検定 母平均の検定		2	
	12 z 検定と t 検定		2	
	13 2 群の平均の差の検定		2	
	14 分散分析		2	
	15 分散分析と多重比較		2	
テキスト	栗原伸一著「入門 統計学(第 2 版)」、オーム社 参考図書：福井正康著「基礎からの統計学」, https://www.heisei-u.ac.jp/ba/fukui/text.html			
成績評価 の方法	毎回 Excel で演習を行い、課題を提出させる。また、任意の時期に小テストを行う。評価配分は以下の通りとする。 小テスト及び演習課題 (60%)、演習への取り組み (20%)、平常点 (20%)			
備 考				

授業科目(履修区分)	農業工学 (専門科目・共通選択)		担当教員	池尻 勉
対象年次	農学科2年		期 別	令和9年度 後期
単 位 数	2単位	講義：2単位 実習： 単位	時 間 数	30時間
授業の目的及び概要	農業工学に関する、生産基盤（用水・排水、農地）、環境保全、農村社会の知識を修得し、地域農業および農村の維持発展についての基礎能力を養う。			
授業の到達目標	農業工学に関する具体的な内容を理解し、地域農業および農村社会の課題解決に向けて、幅広い視点から捉える客観的な判断力を養う。			
授業の方法	パワーポイントを活用した講義により知識の定着を図る。			
授業内容			講義	実習
	1 農業工学概説 農業と水・土（農地）・環境・農村との関わりを概説		2	
	2 基礎知識Ⅰ 単位、力及び水に関する基礎知識		2	
	3 基礎知識Ⅱ 土壌・土質に関する基礎知識		2	
	4 水文学 水の循環、気象観測、降水、水の利用		2	
	5 農業水利学 農業水利施設、用水の利用		2	
	6 農業水利学 農業排水の目的、洪水・農地災害とその対策		2	
	7 ほ場整備 ほ場整備の目的と効用		2	
	8 ほ場整備 換地、農地の集団化		2	
	9 スマート農業 スマート農業に向けた農業基盤整備		2	
	10 環境保全 生態系の仕組み、農業の役割と関係性		2	
	11 農村社会 農村社会の特徴、土地改良区の役割		2	
	12 事例研究 両総用水を例に農業用水の概要を解説		2	
	13 事例研究 農業工学におけるトピック的な事例を紹介・解説		2	
	14 期末試験		2	
	15 総括			
テキスト	第1回講義時に配布予定、必要に応じ適宜配布			
成績評価の方法	小テスト・レポート・期末試験を実施する。評価配分は以下の通りとする。 期末試験：60%、授業中に実施する小テスト及びレポート：40%			
備 考	参考図書 「農業土木ハンドブック」（農業土木学会）			

授業科目(履修区分)	農業協同組合論 (専門教育・共通選択)		担当教員	伊本 克宜	
対象年次	農学科2年		期 別	令和9年度 後期	
単 位 数	2単位	講義：2単位	時 間 数	30時間	
		実習： 単位			
授業の目的及び概要	現代社会における協同組合の存在意義を理解し、協同組合セクターとして地域の「農業とくらし」を支える農業協同組合(JA)の役割を学ぶ。				
授業の到達目標	協同組合の今日的役割、JAの国内農業の役割を学び、今後に役立てる				
授業の方法	対話的授業を重視				
授業内容				講義	実習
	1 はじめに 「農業協同組合論」の意義			2	
	2 協同組合の今日的意義			2	
	3 日本のJAの特徴 ①協同組合原則 ②JA綱領			2	
	4 JA事業①			2	
	5 JA事業②			2	
	6 JA全国大会の概要			2	
	7 自主学習 ※教科書2冊の感想をレポートにする			2	
	8 全農の役割①			2	
	9 全農の役割②			2	
	10 地域JA①			2	
	11 地域JA②			2	
	12 地域JA③			2	
	13 JA事業と農政①			2	
	14 JA事業と農政②			2	
	15 農協論総まとめ・最終レポート提出			2	
テキスト	教科書・「激変！農政のゆくえ」(伊本克宜、KKベストブックス刊) ・「私たちとJA(13訂版)」(JA全中編) 副教材 「千葉県農業・JAの現状」(JA千葉中央会)				
成績評価の方法	最終講義レポート テーマ「2030年の私と食と農とJA」 授業資料・教科書2冊を引用しながら、今後の自分とJAの役割を考える				
備 考					

授業科目(履修区分)	農業政策論 (専門科目・共通選択)		担当教員	井月 明 江口 菜	
対象年次	農学科1年		期 別	令和8年度 後期	
単 位 数	1単位	講義：1単位	時 間 数	15時間	
		実習： 単位			
授業の目的及び概要	食糧・農業・農村基本計画、千葉県農林水産業振興計画に基づく、本県の農業施策の方向性および具体的な施策の内容を学ぶ。				
授業の到達目標	本県農政の動向、施策の具体的な内容を理解し、本県農業を幅広い視点から捉える、客観的な判断力を養う。				
授業の方法	関係する部署の職員の説明及び質疑応答、また学生同士のディスカッションにより、本県農業施策を理解させる。				
授業内容				講義	実習
	1 食料・農業・農村基本計画、千葉県農林水産振興計画について			2	
	2 農業を支える新たな担い手の確保（担い手支援課）			2	
	3 農地利用の最適化（農地・農村振興課）			2	
	4 生産力の強化による稼げる園芸の実現・園芸部門戦略（生産振興課）			2	
	5 中間レポート				
	6 農山漁村における地域資源の活用 地域資源を活用した需要の創出・拡大（農地・農村振興課）			2	2
	7 環境に配慮した農業や有機農業、耕畜連携の推進（環境農業推進課）				
	8 期末試験			2	
テキスト	食料・農業・農村基本計画、千葉県農林水産業振興計画				
成績評価の方法	中間レポート、期末試験により評価 中間・期末試験（70%）、授業への取り組み姿勢・発表（30%）				
備 考					

授業科目(履修区分)	チャレンジ有機農業講座 (専門科目・共通選択)		担当教員	真行寺 孝 高田 伯約	
対象年次	農学科1年		期 別	令和8年度 後期	
単 位 数	2単位	講義：1単位 実習：1単位	時 間 数	45時間	
授業の目的及び概要	有機農業に係る特有の栽培技術や活用される主要な有機質資材の知識を学ぶとともに、有機農業を取り巻く情勢と課題について理解を図る。				
授業の到達目標	有機農業に取り組むために必要な知識・技術の習得及び有機農業の課題について理解する。				
授業の方法	有機農業に係る知識・技術を習熟するための実習とし、理解度をレポートにより確認する。				
授業内容				講義	実習
	1 有機農業をはじめよう、太陽熱土壌消毒				2
	2 有機農業の定義			1	1
	3 土を育てる有機農業、土は生き物				2
	4 有機農業の歴史			1	1
	5 有機農業で使える様々な手段				2
	6 有機農業のメリット・デメリット			1	1
	7 有機農業における雑草、病害虫、有用生物				2
	8 有機農業技術（1）土壌改善			1	1
	9 栽培作物の連作障害と対策				2
	10 有機農業技術（2）病害虫・雑草対策			1	1
	11 有機農業の元気な栽培作物				2
	12 有機農業技術（3）資源循環・省力化			1	1
	13 栽培環境の影響と植物ホルモン				2
	14 独自の有機農業技術と自然農法			1	1
	15 期末レポート				2
テキスト					
成績評価の方法	レポート（50%）、講義・実習への参加・取り組み（50%）				
備 考	参考図書「みんなの有機農業技術大辞典」（農文協）				

授業科目(履修区分)	模擬農業経営演習 (専門科目・共通選択)		担当教員	山本 茂樹、保坂 信久 山下 雅大
対象年次	農学科2年		期 別	令和9年度 通年
単 位 数	4単位	講義： 単位 実習：2単位	時 間 数	120時間
授業の目的及び概要	自分で企画した栽培品目（露地野菜に限る）の計画、準備、栽培、販売、経営収支計算まで行う演習（1年後期のキャリアサポート実習・農業経営改善演習コースの継続演習）			
授業の到達目標	営農計画の作成や栽培管理・販売方法を実践的に身に付け、経営評価を数値的にまとめ理解し、次作に向けた改善策をたてられる（PDCA サイクル）			
授業の方法	自主栽培実習、模擬農業経営（販売は本校適期直売又は模擬会社に委託）			
授業内容			講義	実習
	1 営農計画、必要な資材と調達、必要な記録の種類			4
	2 販売方法、収支試算、経営の目論見			4
	3 ほ場準備、区画、土壌採取・分析（PH, EC 測定）			4
	4 酸度調整、土づくり（堆肥）、土壌消毒			4
	5 基肥、畝たて、マルチ方法			4
	6 播種、育苗、定植、薬剤処理			4
	7 除草管理、支柱、ネット、防風			4
	8 【中間レポート】			4
	9 マルチ除去、間引き、土寄せ、整枝、誘引			4
	10 生育診断（生育量、病害虫の有無）、追肥、薬剤防除			4
	11 収穫、貯蔵、予冷、調製（選別、包装）			4
	12 市場調査、価格決定、表示、ポップ、販売先			4
	13 収入集計、支出集計、収支計算書			4
	14 生産・経営の評価、改善計画の作成			4
	15 【期末試験】			4
テキスト				
成績評価の方法	取組姿勢（70%）、期末試験（30%）			
備 考				

授業科目(履修区分)	農業気象学 (専門科目・共通選択)		担当教員	宮田 明	
対象年次	農学科2年		期 別	令和9年度 前期	
単 位 数	2単位	講義：2単位	時 間 数	30時間	
		実習： 単位			
授業の目的及び概要	農業と気象との関係を理解し、農業気象災害の防止や生産性の向上に役立てる。前半（基礎編）は気象が作物栽培や家畜飼養に及ぼす影響について、後半（応用編）は農業気象災害、環境調節、気候変動について学習する。				
授業の到達目標	インターネットやテレビ・新聞などを通して得られる気象情報や農業気象災害、気候変動に関わる情報を正しく理解し、それらの情報を農業に活用するために必要な基礎的な知識を身に付ける。				
授業の方法	パワーポイントや動画を活用した講義。				
授業内容	主な講義内容			講義	実習
	1 農業と気象との関わり			2	
	2 日射と長波放射、地表面の熱収支			2	
	3 気温と湿度			2	
	4 降水と蒸発、風			2	
	5 作物の蒸散と光合成			2	
	6 畜産と気象			2	
	7 昆虫と気象、積算温度と発育予測			2	
	8 自主学習（レポート提出）			2	
	9 農業気象災害（1）温度に関連する災害			2	
	10 農業気象災害（2）降水、風に関連する災害			2	
	11 環境調節（1）作物栽培における環境調節			2	
	12 環境調節（2）畜産・貯蔵施設の環境調節			2	
	13 気候変動と農業			2	
	14 全体のまとめ			2	
	15 期末試験			2	
テキスト	教科書：なし。プリントを配付。				
成績評価の方法	授業への取り組み：20% 自主学習のレポート：30% 期末試験：50%（筆記試験。配布したプリントの持ち込み可）				
備 考	参考図書 第1回の授業で紹介する。				

授業科目 (履修区分)	国際食料・農業事情論 (専門科目・共通選択)		担当教員	佐藤 博
対象年次	農学科2年		期 別	令和9年度 後期
単 位 数	2単位	講義：2単位 実習： 単位	時 間 数	30時間
授業の目的 及び概要	国際食料農業事情に関し、第一に世界の人口増加と食料増産及び各国の農業生産の特徴と農産物貿易を知り、第二に日本農業と農産物貿易の推移及び千葉県農業の価格競争力を知る。それらによって世界の中での千葉県農業の立ち位置を知り、自らの農業経営の将来を展望できるような基礎的知識を養う。			
授業の到達目標	世界農産物市場の中で、千葉県農産物の価格競争力の数値を具体的に知り（各国の貿易統計）、農産物貿易を客観的に判断できる力を養う。			
授業の方法	プリントと教科書を活用し、黒板でポイントを分かり易く説明する。また、毎回相当数クイズを用意するので、自ら考えることで知識の定着を図る。			
授業内容	主な講義内容			
	1 世界の人口増加と負けてはいない食料増産		2	
	2 世界の農業生産技術の発展を主導する米国農業		2	
	3 大きく発展・変貌する米国農業の映像視聴		2	
	4 各国に共通する農産物価格の決まり方		2	
	5 どうして貿易をするとお互いの国が豊かになるのか		2	
	6 千葉県産農産物の輸入品に対する価格競争力		2	
	7 価格競争力を測る物差し、FOB と CIF 価格		2	
	8 中間レポート		2	
	9 激変した日本農業と農産物貿易の移り変わり		2	
	10 日本農業と各国農業との比較、負けてはいない生産額		2	
	11 期待される農産物輸出とアジア各国の経済成長		2	
	12 各国（オランダ、南米、中国他）の農業生産の特徴		2	
	13 トピックス・日本の米価決定の特徴他		2	
	14 世界の中での千葉県農業の立ち位置と今後の発展		2	
	15 【期末試験】		2	
テキスト	—初回にプリントを配布する —新版「農業がわかると、社会のしくみが見えてくる」 (生源寺眞一/家の光協会/2018年)			
成績評価 の方法	小テスト・期末試験を実施する。評価配分は次の通りとする。期末試験（35%）、小テスト・中間レポート（35%）、授業への参加・取り組み・発表（30%）			
備 考	参考図書：令和8年度版 食料・農業・農村白書（農水省）			

授業科目(履修区分)	スマート農業技術論 (専門教育・共通選択)		担当教員	藤井 雄樹
対象年次	農学科2年		期 別	令和9年度 後期
単 位 数	1単位	講義：1単位 実習： 単位	時 間 数	15時間
授業の目的及び概要	幅広い作目に関連するスマート農業について、技術の概要や活用事例、導入効果等について解説を行う。また、実際の機器についても知見を深める。			
授業の到達目標	スマート農業を情報の認知、判断、作業の実施に大別し、中小規模の農家でも利用可能な技術の理解を目指す。また、実際の機器やシステムについても知見を深め、生産性の高い営農技術の習得を目指す。			
授業の方法	講義は講座の半分はスマート農機メーカー等の外部講師による講義または現地の講義とする。(研究科でも履修可)			
授業内容			講義	実習
	1 スマート農業とは何か、情報の認知段階		2	
	2 情報の判断段階、作業の実施段階①		2	
	3 スマート農業機器の紹介①(外部講師)		2	
	4 スマート農業機器の紹介②(外部講師)		2	
	5 スマート農業機器の紹介③(外部講師)		2	
	6 スマート農業機器の紹介④(外部講師)		2	
	7 作業の実施段階②、スマート農業まとめ		2	
	8 レポート作成(テスト形式)		1	
テキスト	資料を配布する。			
成績評価の方法	中間レポート(79%)、授業への取組(21%、1回出席3%)			
備 考	参考図書「図解よくわかる スマート農業」(日刊工業新聞社) スマート農業オンライン講座 フォローノート第2章 応用編 (北海道大学スマート農業教育拠点)			

授業科目(履修区分)	花き装飾論 (専門教育・共通選択)		担当教員	笹原 由里
対象年次	農学科1年		期 別	令和8年度 後期
単 位 数	2単位	講義：2単位 実習： 単位	時 間 数	30時間
授業の目的及び概要	花き装飾の造形理論や歴史を学び、実技を通して花き装飾の技術を修得する。花業界各方面への可能性を広げられるよう、幅広い技術の習得を目指す。			
授業の到達目標	花き専攻優先、フラワー装飾関係資格対策講座			
授業の方法	テキストによる講義と生花を使った実技による知識や技術の修得を図る。小テストを行い、知識の定着を図る。			
授業内容			講義	実習
	1 花き装飾の歴史とマーケットリサーチ		2	
	2 花き装飾総論		2	
	3 トライアングュラーデザイン理論		2	
	4 トライアングュラーデザイン実技		2	
	5 ドーム型デザインとホルダーブーケ理論		2	
	6 ドーム型デザイン実技		2	
	7 パラレルデザイン理論と実技		2	
	8 自主学習 レポート課題 「花の造形理論について」		2	
	9 テクスチャー理論と実技		2	
	10 ワイヤークワーク コサージュ実技		2	
	11 リース型デザイン クリスマスリース実技		2	
	12 花束理論と実技		2	
	13 ブライダルブーケ実技		2	
	14 全体評価 評価試験		2	
	15 花業界における花き装飾の可能性とまとめ		2	
テキスト	NFD フラワーデザイナー 資格検定試験テキスト			
成績評価の方法	小テスト・レポート・期末試験を実地する。評価配分は以下の通りとする。 ・ 期末試験:30% ・ 授業中の実技制作に対する取り組み 40% ・ 授業への参加・取り組み・レポート 30%			
備 考	参考図書 「造形要素と度合い」(六耀社)			

授業科目(履修区分)	園芸療法論 (専門科目・共通選択)		担当教員	多田 充
対象年次	農学科2年		期 別	令和9年度 後期
単 位 数	2単位	講義：2単位 実習： 単位	時 間 数	30時間
授業の目的及び概要	農園芸には作物等を生産するほかに、関わる人間に癒しを与える機能がある。この機能を病気の治療やリハビリテーションに活用するのが園芸療法であり、医療機関や福祉施設等において農業技術者が求められている。また、農業の担い手不足を、障害者を含む多様な人で補う農福連携という動きもみられるようになった。			
授業の到達目標				
授業の方法	本講義では、これらの農業と福祉の関係について学び、これからの農業の多機能化について事例を交えて紹介する。			
授業内容			講義	実習
	1 オリエンテーション：農の癒しを感じる 授業の概要について説明する。また、実際に屋外に出て農業環境に接したときの気分の変化について体感する。		2	
	2 農園芸の福祉的機能の活用方法 園芸福祉、園芸療法、農福連携の相違点を紹介する。		2	
	3 農福連携の事例①（福祉系） 小規模な障害者福祉施設における農園芸生産の事例を紹介する。障害者による農業生産の様子を学ぶ。		2	
	4 農福連携の事例②（福祉系） 別の小規模な障害者福祉施設における農園芸の事例を紹介する。障害者のための農業生産の様子を学ぶ。		2	
	5 農福連携の事例③（生産系） 生産を主体とする比較的規模の大きい農園（水耕栽培）における障害者の役割、生産体制を紹介する。		2	
	6 農福連携の事例④（生産系） 生産を主体とする比較的規模の大きい農園（ブドウ栽培、ワイン醸造）における障害者の役割、生産体制を紹介する。		2	
	7 障害者と就労支援制度 障害の定義、分類、障害者の就労をとりまく社会的制度などを説明する。		2	
	8 特例子会社における農園芸の取り組み 企業価値を高めるために障害者を雇用し、農園芸に取り組む特例子会社の事例を紹介する。		2	
	9 特例子会社・人材派遣会社における農園芸の取り組み 障害者や健常者を農園芸作業員として派遣する特例子会		2	

	社・人材派遣会社とそのビジネスモデルを紹介する 10 園芸療法の事例紹介 福祉施設における高齢者や障害者を対象とした園芸療法の事例、治療のポイントを紹介する。 11 健康・リハビリテーション、園芸療法の定義と歴史 園芸療法を医療・福祉的側面から理解するために必要な用語、概念を説明する。また、園芸療法の歴史を紹介する。 12 園芸療法の効果 園芸療法の効果を身体的、精神的、社会的効果の3つの視点から紹介する。 13 子どもと園芸 花育や自然体験など、子どもと緑のふれあいプログラムの事例を紹介する。 14 体験活動と生きる力 子どもの体験活動がどのような効果をもたらすのか、「生きる力」をキーワードに解説する。 15 期末試験	2 2 2 2 2 2	
テキスト	プリントを配布する。		
成績評価の方法	期末試験を実施する。評価配分は以下の通り。 期末試験（80%）、授業への参加・取り組み（20%）		
備考			

授業科目(履修区分)	農業機械実習Ⅱ (専門教育・共通選択)	担当教員	櫻井 富久、内山 和也、 中島 勇貴、板倉 智貴
対象年次	農学科1年 農学科2年	期 別	令和8年度 通年 令和9年度 通年
単 位 数	1単位	講義： 単位 実習： 1単位	時 間 数 16時間
授業の目的及び概要	農業機械の運転や、点検整備、保守管理、安全管理などについて優れた知識と技能を有する農業機械士の認定を図る。		
授業の到達目標	千葉県農業機械士資格（認定）の取得		
授業の方法	千葉県農業機械士認定要領に基づく、農業機械技能検定試験（仕業点検、作業機の着脱、ロータリー耕）に向けた実技講習を進め、その後に実技試験を実施。2日目に農業機械士学科試験を受験する。		
授業内容	1 オリエンテーション 千葉県農業機械士の認定、試験内容・実施方法。 農業機械士技能検定試験（実技試験）の説明、練習 仕業点検、作業機の着脱、ロータリー耕 ほ場等での実技講義及び練習実施 2 農業機械士技能検定試験（実技試験）の実施 仕業点検、作業機の着脱、ロータリー耕 農業機械士技能検定試験（学科試験）の実施	講義	実習 8 8
テキスト	農業機械士技能検定試験テキスト《第6版》 農業機械士技能検定試験問題例題集（一般社団法人日本農業機械化協会編）		
成績評価の方法	農業機械士技能検定試験（実技試験、学科試験）の成績70%、農業機械実習への取り組み姿勢30%の合計点で評価する。		
備 考	農業機械士の取得を必須とする。		

授業科目(履修区分)	農業機械実習Ⅲ (専門教育・共通選択)		担当教員	内山 和也、大内 昭彦、 林 貴雄、中島 勇貴
対象年次	農学科1年 農学科2年		期 別	令和8年度 後期 令和9年度 後期
単 位 数	1単位	講義：(0.5)単位 実習：1単位	時 間 数	30時間(32)
授業の目的及び概要	労働安全衛生法の規定に基づき、最大荷重が1トン未満のフォークリフトの運転ならびに機体重3トン未満の小型の車両系建設機械の運転には特別教育の受講が必要となる。それぞれ、講義と実習を通して運転操作に必要な知識技能を習得する。			
授業の到達目標	フォークリフト・車両系建設機械の資格取得			
授業の方法	テキストを用いた講義と実機操作による操作技術を習得する。			
授業内容			講義	実習
	フォークリフト 1 フォークリフトの走行に関する装置の構造および取扱いの方法に関する知識 2 フォークリフトの荷役に関する装置の構造および取扱いの方法に関する知識 3 フォークリフトの運転に必要な力学に関する知識 4 関係法令 5 フォークリフトの走行の操作(実技) 6 フォークリフトの荷役の操作(実技) 小型車両系建設機械 1 小型車両系建設機械(整地・運搬・積込み及び掘削用)の走行に関する装置の構造及び取扱いの方法に関する知識 2 小型車両系建設機械(整地・運搬・積込み及び掘削用)の作業に関する装置の構造及び取扱いの方法に関する知識 3 小型車両系建設機械(整地・運搬・積込み及び掘削用)の運転に必要な一般的事項に関する知識 4 関係法令 5 小型車両系建設機械(整地・運搬・積込み及び掘削用)の走行の操作(実技) 6 小型車両系建設機械(整地・運搬・積込み及び掘削用)の作業のための装置の操作(実技)		2 2 1 1 3 2 1 1 4 2	4 2 4 2
テキスト	「フォークリフト運転士テキスト」中央労働災害防止協会 「小型車両系建設機械運転者必携特別教育用テキスト」建設業労働災害防止協会			
成績評価の方法	座学・実習を受講した者に小テストを実施する。 ○座学・実習への参加：90% ○小テスト：10%			
備 考				

授業科目(履修区分)	有害鳥獣対策講座 (専門教育・共通選択)		担当教員	浅田 正彦	
対象年次	農学科 1 年 農学科 2 年		期 別	令和 8 年度 後期 令和 9 年度 後期	
単 位 数	1 単位	講義 : 0.5 単位 実習 : 0.5 単位	時 間 数	2 4 時間	
授業の目的及び概要	有害鳥獣による農業被害、人身被害対策に関する知識を習得するとともに、自らが農村での農業生産などの生活を行う際の基礎的な対策技術を習得する。				
授業の到達目標	獣種毎の被害発生機序を理解し、獣害の少ない農村地域にするための素養を養う。				
授業の方法	パワーポイントを活用した講義および、捕獲わなや防護柵などの対策機材の操作方法に関する実習を行う。				
授業内容	主な講義内容			講義	実習
	1 日目				
	午前	獣害の実態と対策の基礎講義	2		
		アライグマ・ハクビシン対策講義	2		
	午後	小型獣捕獲実習			2
		自動撮影カメラ調査実習			2
	2 日目				
	午前	イノシン対策講義	2		
		大型獣捕獲対策技術・ジビエ利用講義	2		
	午後	鳥害講義	2		
		大型捕獲実習			2
	3 日目				
午前	防護対策・環境整備対策講義	2			
	防護柵設置実習 (小型ワナ・カメラ回収)			2	
午後	集落ぐるみの対策講義	2			
	対策企画立案ワークショップ実習			2	
テキスト	事前に原稿提供				
成績評価の方法	班ごとに立案した対策企画のレポート評価				
備 考					

(ウ) 専門選択科目

a 植物系科目

授業科目(履修区分)	植物生理学 (専門教育・植物系)		担当教員	永山 春菜	
対象年次	農学科 1年・2年		期 別	令和8年度 後期 令和9年度 後期	
単 位 数	2単位	講義： 2単位	時 間 数	30時間	
		実習： 単位			
授業の目的及び概要	植物がどのように生き、成長し、環境に応答するかを学び、植物特有の生理現象の機能について理解する。また、その生理現象を活用した栽培技術について理解することを目標とする。				
授業の到達目標	・植物の生理現象とその機能を理解する。 ・植物生理を活用した栽培技術を理解する。				
授業の方法	講義（75分）、演習（15分）				
授業内容				講義	実習
	1 構造と機能Ⅰ（細胞、葉）			2	
	2 構造と機能Ⅱ（茎、根）			2	
	3 種子と発芽			2	
	4 花芽形成と開花			2	
	5 受粉と結実			2	
	6 繁殖と増殖			2	
	7 中間考査			2	
	8 光合成Ⅰ（光合成速度）			2	
	9 光合成Ⅱ（光呼吸）			2	
	10 光環境と光合成産物			2	
	11 植物ホルモンⅠ（オーキシン）			2	
	12 植物ホルモンⅡ（ジベレリン）			2	
	13 植物ホルモンⅢ（アブシ酸、サイトカイニン、エチレン等）			2	
	14 期末考査			2	
	15 試験問題の解説			2	
テキスト	必要に応じて資料を配付				
成績評価の方法	授業態度、中間レポート、期末考査				
備 考	参考図書 「絵とき 植物生理学入門」（オーム社） 「エッセンシャル植物生理学 農学系のための基礎」（講談社） 「植物の体の中では何が起きているのか」（ベレ出版）				

授業科目(履修区分)	植物育種学 (専門教育・植物系)		担当教員	中田 菜々子
対象年次	農学科2年		期 別	令和9年度 後期
単 位 数	2単位	講義： 2単位 実習： 単位	時 間 数	30時間
授業の目的及び概要	優れた品種は生産性向上や経営向上に寄与する重要なアイテムである。この優れた品種を作出する方法を体系的に学び、農業における育種の意義を考える。また、新品種を保護し育種を振興するための種苗法について理解する。			
授業の到達目標	品種の定義やその作出方法、品種特性、種苗法を理解する。			
授業の方法	講義形式で行うが、講義内容に関する設問に学生が回答する機会を設ける。			
授業内容			講義	実習
	1 品種と育種		2	
	2 植物の生殖様式と雑種強勢		2	
	3 ゲノムと倍数性		2	
	4 量的形質と質的形質		2	
	5 遺伝資源とゲノム情報		2	
	6 交雑育種と種間交雑育種		2	
	7 突然変異育種と遺伝子組換えによる育種 中間レポート		2	
	8 ゲノム編集技術による育種		2	
	9 自殖性植物の育種法		2	
	10 他殖性植物と栄養繁殖植物の育種法		2	
	11 DNA マーカー選抜法と品種同定技術		2	
	12 育種目標		2	
	13 種苗法		2	
	14 期末考査		2	
テキスト	「植物育種学(第5版)」(北柴大泰、西尾 剛著 文永堂出版)			
成績評価の方法	筆記試験・レポート(80%)、授業での態度・発言(20%)			
備 考				

授業科目(履修区分)	病理・昆虫学 (専門教育・植物系)		担当教員	清水 敏夫
対象年次	農学科2年		期 別	令和9年度 後期
単 位 数	2単位	講義： 2単位 実習： 単位	時 間 数	30時間
授業の目的及び概要	本科目では、病気と害虫の発生、環境の影響、診断、防除法等について学ぶ。具体的な病害及び虫害の発生メカニズムについて理解を深め、これらに対する各種防除法についての知識を身に付ける。加えて、千葉県における病虫害研究の最新情勢についても学ぶ。			
授業の到達目標	病原微生物の分類・特性と植物の病徴を理解し、異生物間相互作用に基づく感染・抵抗性メカニズムを習得する。さらに昆虫の特徴的な行動や生活史を知ることによって生態系の中での昆虫の位置づけを理解する。これにより、診断能力と的確な防除手段を選択・提案できる能力を身につける。			
授業の方法	パワーポイントを活用した講義を行う。知識の定着を図るため、毎回、プリントを配布し、いつでも復習しやすいように活用する。なるべく実物教材を使用し、実物の教材の代わりとなる動画等も視聴し、理解を深める。			
授業内容			講義	実習
	1 植物病の現れ方、植物病に関連する人畜毒性のある生理活性物質		2	
	2 植物病防除の目的、植物病の発見の歴史、学名について		2	
	3 近年社会等に大きな影響を及ぼした病虫害の事例、診断の意義		2	
	4 微生物病・病原体の概説、菌類1（原生動物界、クロミスタ界）		2	
	5 菌類2（菌界）		2	
	6 細菌、ウイルス・ウイロイド		2	
	7 線虫害		2	
	8 中間レポート		2	
	9 昆虫の概説、形態1		2	
	10 昆虫の形態2、分類1		2	
	11 昆虫の分類2、ダニ目の概説、昆虫の生態1		2	
	12 昆虫の生態2		2	
	13 昆虫の生態3、病虫害の防除技術1		2	
	14 病虫害の防除技術2		2	
	15 期末試験		2	
テキスト	「植物医科学」（養賢堂）			
成績評価の方法	筆記試験（80%）、学習態度（20%）			
備 考	参考資料を提供して適時紹介する。			

授業科目(履修区分)	土壌・肥料学 (専門教育・植物系)		担当教員	井上 雄樹
対象年次	農学科 1年		期 別	令和8年度 後期
単 位 数	2単位	講義： 2単位 実習： 単位	時 間 数	30時間
授業の目的及び概要	土壌及び肥料の特徴を学び、土壌保全と肥培管理及び環境保全との関わりを考えることを通して、農作物生産における土壌肥料管理技術の習得とその重要性を理解することを目的とする。			
授業の到達目標	1 肥料の分類と特性の理解 2 土壌の基本的な性質及び用語の理解 3 施肥の基本的な計算方法の習得			
授業の方法				
授業内容			講義	実習
	1 土壌・肥料学の学習について（ガイダンス） 肥料の必要性について 2 施肥量の決め方について 3 肥料の種類と特徴（1）窒素質肥料 4 肥料の種類と特徴（2）リン酸質肥料とカリ質肥料 5 肥料の種類と特徴（3）石灰質肥料と緩効性肥料 6 化学肥料と有機質肥料について 7 中間レポート 8 栽培環境と施肥の実際 （1）水田土壌（2）露地土壌（3）施設土壌（4）樹園土壌 9 土壌の化学性について 10 土壌の物理性/生物性について 11 土壌の生物性について（土壌消毒・堆肥） 12 土壌の生物性について（緑肥）、土壌の肥沃化について（腐植） 13 作物栽培における生育異常と欠乏症・過剰症について 14 期末試験 15 まとめ		2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	
テキスト	「土と施肥の新知識」（渡辺和彦 ほか 全国肥料商連合会）			
成績評価の方法	課題演習・中間レポート・期末試験を実施する。 評価配分は以下のとおりとする。 筆記試験(70%)、中間レポート(30%)			
備 考	参考資料を提供して適宜紹介する。 毎時間の施肥に関する演習を実施する。			

授業科目(履修区分)	作物学 (専門教育・植物系)		担当教員	太田 和也
対象年次	農学科 1年		期 別	令和8年度 前期
単 位 数	2単位	講義： 2単位 実習： 単位	時 間 数	30時間
授業の目的及び概要	食用作物の来歴や形態、特質、栽培方法や利用について学習する。イネを始めとしてムギ類、マメ類、イモ類等について作物学の基礎を学ぶとともに、これらの作物と生活との関わりについての理解を深める。			
授業の到達目標	日本で経営栽培される主な穀類について、基礎的な作物生理や生育特性を学んだ上で、実際の栽培方法を理解する。			
授業の方法	テキストの内容を理解するためにスライドや動画による解説、3コマ単位で小テストをおこない、理解の程度を確かめる。			
授業内容			講義	実習
	1 イネの一生と栽培方法		2	
	2 作物の成長と体のしくみ		2	
	3 作物の収量と栽培環境		2	
	4 イネ1 稲作と米の利用		2	
	5 イネ2 イネの一生と成長		2	
	6 イネ3 生育・収量と栽培環境		2	
	7 イネ4 栽培の実際		2	
	8 中間レポート(イネと日本人)		2	
	9 ムギ1 麦類の特徴と利用		2	
	10 ムギ2 さとのそら		2	
	11 豆類 ダイズ		2	
	12 豆類 ラッカセイ、インゲンマメ、アズキ		2	
	13 いも類 ジャガイモ、サツマイモ		2	
	14 雑穀 ソバ、トウモロコシ		2	
	15 期末試験		2	
テキスト	「新版 作物栽培の基礎」(社団法人 農山漁村文化協会) 必要に応じて資料配布			
成績評価の方法	学習態度(10%)、小テスト・レポート(40%)、 期末試験(中間試験等を含む)(50%)			
備 考	「作物学の基礎Ⅰ」(社団法人 農山漁村文化協会)、「稲作標準技術体系」・「麦作標準技術体系」・「大豆標準技術体系」・「野菜ハンドブック」(千葉県農林水産技術会議)、「農作物病害虫雑草防除指針」・「主要農作物等施肥基準等」(千葉県農林水産部環境農業推進課)			

授業科目(履修区分)	野菜園芸学 (専門教育・植物系)		担当教員	江口 菜
対象年次	農学科2年		期 別	令和9年度 前期
単 位 数	2単位	講義：2単位 実習： 単位	時 間 数	30時間
授業の目的及び概要	野菜の生産状況や栽培における課題を理解し、野菜栽培に係わる共通管理方法や栽培管理技術について学習する。			
授業の到達目標	主要な野菜の作型と品種、生理生態を学び、実践に向けた栽培知識・技術を習得する。			
授業の方法	プリントを中心にパワーポイントを用いて講義を行う。			
授業内容			講義	実習
	1回 野菜の生産と利用	暮らしの中の野菜 野菜の生産と消費の動向	2	
	2回 野菜の生育と品質	種子と発芽、根の発達と肥大 茎葉の生育と結球	2	
	3回 野菜の生育と品質	花芽分化・発達と果実の肥大	2	
	4回 野菜の生育と品質	休眠と休眠打破 野菜の品質とその管理	2	
	5回 野菜の栽培と環境管理	野菜の健全な生育と環境	2	
	6回 野菜の栽培と環境管理	土壌管理	2	
	7回 野菜の栽培と環境管理	施肥管理、小テスト	2	
	8回 野菜の栽培と環境管理	被覆栽培の利用	2	
	9回 野菜の栽培と環境管理	施設栽培と環境管理 養液栽培技術 (スマート農業を含む)	2	
	10回 野菜の栽培と環境管理	有害生物(病害虫、雑草)の管理、小テスト	2	
	11回 野菜の栽培と環境管理	果菜類、葉菜類の育苗 セル成型苗の育成	2	
	12回 野菜栽培の実際	ナス科野菜の栽培	2	
	13回 野菜栽培の実際	ウリ科野菜の栽培	2	
	14回 野菜栽培の実際	アブラナ科野菜の栽培	2	
	15回 期末試験		2	
テキスト	「農学基礎セミナー 新版 野菜栽培の基礎」(社団法人 農山漁村文化協会)			
成績評価の方法	小テスト、期末試験を実施する。小テスト(20%)、期末試験(80%)			
備 考				

授業科目(履修区分)	果樹園芸学 (専門選択・植物系科目)		担当教員	吉田 明広
対象年次	農学科1年		期 別	令和8年度 後期
単 位 数	2単位	講義： 2単位 実習： 単位	時 間 数	30時間
授業の目的及び概要	千葉県で栽培の多い梨を中心に、果樹の生理・生態と栽培技術の基本及び果樹の栽培状況などを理解する。また、各論において主要な果樹類の特徴について学ぶ。			
授業の到達目標	・ 果樹の栽培技術を理解する。 ・ 果実の品質管理技術を理解する。 ・ 果実の結実メカニズムを理解する。			
授業の方法	・ テーマに沿った講義を行う (75 分) ・ テーマに対してグループで議論を行い、結果をまとめる (15 分)			
授業内容		講義	実習	
	1回 果樹生産と消費	2		
	2回 果樹の一生と1年	2		
	3回 果樹の適地	2		
	4回 生育課程と作業	2		
	5回 樹形と作業性	2		
	6回 増殖と定植	2		
	7回 施設栽培とスマート農業	2		
	8回 品質管理と販売	2		
	9回 中間テスト	2		
	10回 各論①ニホンナシ	2		
	11回 各論②ブドウ・カキ	2		
	12回 各論③ブルーベリー・ビワ・カンキツ類	2		
	13回 各論④核果類・キウイフルーツ・イチジク	2		
	14回 各論⑤熱帯果樹	2		
	15回 期末試験	2		
テキスト	【農学基礎セミナー】新版 果樹栽培の基礎 杉浦 明 (農文協/2004 年)			
成績評価の方法	グループ演習結果、中間レポート及び期末試験			
備 考	配布スライドなどをファイリングして管理すること			

授業科目(履修区分)	花き園芸学 (専門教育・植物系)		担当教員	田川 和泉	
対象年次	農学科2年		期 別	令和8年度 後期	
単 位 数	2単位	講義： 2単位	時 間 数	30時間	
		実習： 単位			
授業の目的及び概要	花きの生理・生態と栽培技術の基本及び花きの栽培状況などを理解する。また、花きの生産形態において主要な花き類の特徴について学ぶ。				
授業の到達目標	花き園芸の基礎的な内容を学習し、花き生産について理解を深め知識を習得する。				
授業の方法	授業内容に沿った講義を実施し、講義内容に関する設問に学生が回答する機会を設ける。また、毎回演習問題を実施し、解説を通して理解を深める。				
授業内容	主な講義内容			講義	実習
	1 草花園芸の特徴について			2	
	2 草花生産と消費の動向について			2	
	3 草花の多目的利用について			2	
	4 園芸デザインについて			2	
	5 草花の生育と環境①			2	
	6 草花の生育と環境②			2	
	7 中間レポート			2	
	8 品種改良と繁殖について			2	
	9 栄養繁殖について			2	
	10 草花の生育と栽培技術について			2	
	11 切り花生産の特徴について			2	
	12 鉢ものの生産の特徴について			2	
	13 花壇苗生産の特徴について			2	
	14 草花経営の改善について			2	
	15 期末試験			2	
テキスト	「草花」(実教出版)、「持ち歩き！花の事典 970 種」(西東社)				
成績評価の方法	試験およびレポートにより評価 中間・期末試験 (70%)、授業への取り組み姿勢・発表 (30%)				
備 考					

b 動物系科目

授業科目(履修区分)	家畜育種学 (専門教育・動物系)		担当教員	瓦井 哲夫
対象年次	農学科2年		期 別	令和9年度 前期
単 位 数	2単位	講義： 2単位 実習： 単位	時 間 数	30時間
授業の目的及び概要	家畜育種学が人類の文明進展に果たしてきた役割等を十分理解させるとともに、家畜育種・改良の基礎である形質遺伝と能力検定による選抜を中心に学習することにより、畜産の生産現場において育種学がどのように関わっているかを理解させる。更に、家畜の生産能力を評価するための統計学（分散と標準偏差を主）の基礎を講義及び演習により体得する。			
授業の到達目標	家畜育種学が家畜の能力向上を果たし、更には人類文明の進展にも貢献してきたことを理解する。			
授業の方法	用意したテキスト及び各関係資料（最新情報も含め）による講義を中心に、講義の進捗に応じて演習を行い、理解度を深める。			
授業内容	主な講義内容			講義 実習
	1回 家畜育種学の沿革1 家畜と文明の発展、野生動物の家畜化		2	
	2回 家畜育種学の沿革2 家畜の改良と歴史、わが国の畜産の展開と家畜改良		2	
	3回 家畜の種と品種 家畜の種と品種の分類、家畜の品種（牛・豚・鶏）		2	
	4回 家畜の形質の遺伝1 遺伝の仕組み（メンデルの法則とその発展）		2	
	5回 家畜の形質の遺伝2 家畜の性に関する遺伝、質的・量的形質の遺伝		2	
	6回 家畜の形質の遺伝3 量的変異の分析方法（平均・分散・標準偏差の基礎）		2	
	7回 家畜の形質の遺伝4 質的変異の分析方法（平均・分散・標準偏差の演習）		2	
	8回 予習（平均・分散・標準偏差の課題に対するレポート）		2	
	9回 家畜育種の方法1 育種目標（千葉県家畜改良増殖目標）		2	
	10回 家畜育種の方法2 選抜の方法（能力検定の実際：乳牛・豚）		2	
	11回 家畜育種の方法3 交配の方法（近交係数・血縁係数・近交退化・雑種強勢）		2	
	12回 家畜育種の方法4		2	

	遺伝子工学による育種（DNA操作等） 13回 各家畜の育種 1 乳牛・肉牛（牛群検定・産肉能力検定） 14回 各家畜の育種 2 豚・鶏（系統造成・組み合わせ検定） 15回 期末試験	2 2 2	
テキスト	テキスト：講師作成、講義資料：各情報誌等		
成績評価の方法	課題演習及び期末試験を実施する。評価配分は以下のとおりとする。 講義・演習への取り組み意欲、理解度30%、期末試験成績70%		
備考			

授業科目(履修区分)	家畜繁殖学 (専門選択・動物系科目)		担当教員	渡辺 一夫
対象年次	農学科2年		期 別	令和9年度 後期
単 位 数	2単位	講義： 2単位 実習： 単位	時 間 数	30時間
授業の目的及び概要	家畜繁殖の基礎理論を理解し、具体的な繁殖管理の方法を習得する。			
授業の到達目標	家畜（特に牛、豚）の繁殖繁殖ホルモン分泌、受精、妊娠および分娩に至るまでの生理的知識を修得し、畜産農家経営安定化を図るために必要な繁殖成績向上の一助となる基礎的知識を養う。			
授業の方法	パワーポイントを活用した講義、毎回、小テストを行い、知識の定着を図る。			
授業内容			講義	実習
	1 家畜の繁殖：日本の畜産の形態と生産性及び家畜の繁殖性		2	
	2 雌の生殖器：牛と豚の生殖器の特徴および機能		2	
	3 雄の生殖器：牛と豚の生殖器の特徴および機能		2	
	4 繁殖ホルモン：繁殖機能に係るホルモンの種類及び作用		2	
	5 家畜の繁殖周期と性周期 性成熟および性周期に伴う生殖器の変化		2	
	6 卵胞と黄体：雌の性周期と繁殖ホルモン動態		2	
	7 精子の構造と運命：射精から受精能獲得まで		2	
	8 排卵と受精		2	
	9 発情および交配適期		2	
	10 受精卵の発育、着床と胎盤形成		2	
	11 妊娠・分娩：妊娠鑑定、胎児の発育および分娩		2	
	12 牛の人工授精：凍結精液、人工授精手技および衛生管理		2	
	13 豚の人工授精：人工授精手技、精液採取および精液調整法		2	
	14 繁殖障害		2	
	15 期末試験		2	
テキスト	「家畜人工授精講習会テキスト」（日本家畜人工授精師協会）			
成績評価の方法	小テスト、レポート、期末考査を実施する。評価配分は以下の通りとする。 期末考査 30%、小テスト・レポート 40%、授業参加・取り組み・発表 30%			
備 考	参考図書 「家畜繁殖」（加藤征史郎 編著朝倉書店）			

授業科目(履修区分)	家畜生理学 (専門選択)		担当教員	薫田 耕平
対象年次	農学科1年		期 別	令和8年度 後期
単 位 数	2単位	講義： 2単位 実習： 単位	時 間 数	30時間
授業の目的及び概要	家畜生理学に関する基礎的かつ体系的な知識を修得し、家畜の生命活動の仕組みを科学的に理解することを目的とする。これにより、飼養管理や生産性向上に必要な科学的視点を身につけるとともに、家畜の生理的特性を踏まえて農業経営の現場で生じる課題を分析し、適切な対応策を導き出すための基礎的能力を養う。			
授業の到達目標	授業を履修することで、以下の能力を身につけることを目標とする。 家畜の主要な生理機能を理解し、知識を飼養管理に科学的に応用できる。 生理学的知見を活用し、生産現場における課題の改善や解決に寄与できる基礎的能力を習得する。			
授業の方法	教科書とパワーポイントを活用した講義、2回小テストを行い、知識の定着を図る。			
授業内容	主な講義内容			
	1 生体を構成する物質 2 細胞の構造と機能 3 血液と血液循環 4 呼吸 5 消化と吸収 6 栄養と代謝 [小テスト] 7 排泄及び恒常性の維持 8 内分泌系と機能 9 ホルモンと作用 10 生殖及び泌乳 11 神経系と情報伝達及び中枢神経と末梢神経系 12 感覚及び骨格と筋肉 13 生体防御と免疫 [小テスト] 14 老化 15 期末試験	講義	実習	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
テキスト	「図説 基礎動物生理学」東條英昭、奈良岡準著(アドスリー)			
成績評価の方法	小テスト・レポート・期末試験を実施する。評価配分は以下のとおりとする。 期末試験 70%、小テスト・レポート 10%、授業参加・取組・発表：20%			
備 考				

授業科目(履修区分)	家畜環境保全学 (専門選択・動物系科目)		担当教員	岡田 望
対象年次	農学科2年		期 別	令和9年度 後期
単 位 数	2単位	講義： 2単位 実習： 単位	時 間 数	30時間
授業の目的及び概要	環境に配慮した畜産を営むために、畜産環境に係る法規制を理解し、適切なふん尿処理と利用の基礎理論、実際の処理体系を習得する。			
授業の到達目標	畜産の地域環境・地球環境への影響を広い視野で把握するとともに、堆肥化及び浄化処理等のメカニズムを理解し、家畜排泄物等の処理・管理技術を説明できる。			
授業の方法	プリント配布・動画視聴を通じて理解を深める。			
授業内容			講義	実習
	1 畜産の地域環境・地球環境への影響		2	
	2 畜産環境保全に係る法規制		2	
	3 家畜排せつ物法の概要		2	
	4 家畜ふん尿の基本と処理体系（小テスト）		2	
	5 堆肥化処理のメカニズム		2	
	6 堆肥化の設計計算		2	
	7 堆肥の生産と利用（小テスト）		2	
	8 家畜ふん尿の高度処理（メタン発酵処理等）		2	
	9 汚水浄化処理の基本と処理体系		2	
	10 浄化処理メカニズム（活性汚泥法）		2	
	11 悪臭及び衛生害虫対策（小テスト）		2	
	12 自主学習（レポート）		2	
	13 { 現地視察研修 }		2	
	14 { 現地視察研修 }		2	
	15 総括 期末試験及び解説		2	
テキスト	プリント、PP スライド等を使用			
成績評価の方法	小テスト・レポート・期末試験を実施する。評価配分は以下のとおり。 期末試験(70%)、小テスト及びレポート(20%)、授業態度など(10%)			
備 考				

授業科目(履修区分)	飼料学 (専門教育・動物系)		担当教員	伊藤 香葉
対象年次	農学科 2年		期 別	令和9年度 後期
単 位 数	2単位	講義： 2単位 実習： 単位	時 間 数	30時間
授業の目的及び概要	飼料の役割を理解し、飼料作物の栽培・調製方法、各種飼料について特性や栄養価、家畜に給与する方法を学習する。			
授業の到達目標	1 飼料の分類と栄養学的特性の理解 2 飼料設計・配合計算の方法習得			
授業の方法	授業の目的及び概要に従い講義を行う。			
授業内容			講義	実習
	1 飼料作物の特徴と栽培		2	
	2 飼料作物の調製と保存		2	
	3 飼料に求められる条件		2	
	4 飼料の分類と種類		2	
	5 単体飼料の種類と特徴		2	
	6 配合飼料の種類と特徴		2	
	7 飼料資源 1 動物性飼料・穀類飼料		2	
	8 中間レポート		2	
	9 飼料資源 2 マメ類、油実類飼料		2	
	10 飼料資源 3 油粕類、油脂類飼料		2	
	11 飼料資源 4 草本飼料、青刈り飼料作物		2	
	12 飼料資源 5 食品製造副産物・特殊飼料		2	
	13 飼料設計 1 CP、TDN 等の飼料中栄養量の計算		2	
	14 飼料設計 2 家畜が求める要求量への充足率計算		2	
	15 期末試験		2	
テキスト	「動物の飼料」第2版 唐澤豊（文永堂出版/2017） 「家畜飼育の基礎」阿部亮（一般社団法人農山漁村文化協会/2008）			
成績評価の方法	小テスト・期末試験を実施する。 評価配分は以下のとおりとする。 期末試験(70%)、小テスト及びレポート(20%)、授業態度など(10%)			
備 考	「日本飼養標準」(中央畜産会)			

授業科目(履修区分)	酪農・肉牛 (専門選択・動物系科目)		担当教員	井上 貢
対象年次	農学科1年 農学科2年		期 別	令和8年度 後期
単 位 数	2単位	講義： 2単位 実習： 単位	時 間 数	30時間
授業の目的及び概要	酪農・肉牛の飼養や繁殖技術等に関する基礎知識及びこれら大家畜経営を取り巻く環境等について体系的に理解・修得し、畜産関係者として社会に踏み出すための基礎能力を養う。			
授業の到達目標	・県内外における畜産の現状と支援体制の理解、また酪農・肉牛の飼養管理や繁殖等に係る基礎知識を習得して、指導者としての立ち位置を模索し、多角的に行動する力を養う。			
授業の方法	・できるだけ双方向で対話型の授業を実施したい。 ・教科書と関連する配布プリントを主体に講義する。			
授業内容			講義	実習
	1 畜産経営体を支援する千葉県内及び国内の機関、組織、団体		2	
	2 千葉県の畜産：酪農と肉牛の現状及び生産物の流通		2	
	3 乳牛・肉牛の品種と改良及び牛体の部位名称		2	
	4 乳牛・肉牛の一生		2	
	5 飼育方式と施設・整備		2	
	6 乳牛・肉牛の繁殖生理と家畜人工授精・受精卵移植技術		2	
	7 分娩管理、子牛・育成牛の飼育管理		2	
	8 搾乳牛の飼育管理と飼料設計		2	
	9 乳牛・肉牛の衛生と病気及び「家畜の飼養衛生管理基準」		2	
	10 自主学習（レポートによる課題提起と対応策）		2	
	11 肉牛の品種と改良及び千葉県産和牛の登録		2	
	12 肉牛の生理と飼育技術		2	
	13 肉牛の飼料給与（和牛繁殖雌牛、哺育～肥育牛）		2	
	14 畜産物価格安定制度、農場 HACCP 及び JGAP 認証制度の概要		2	
	15 期末試験		2	
テキスト	「家畜飼育の基礎」（社団法人 農山漁村文化協会）			
成績評価の方法	評価配分は以下のとおりとする。 期末試験(90%)、授業態度など(10%)			
備 考	授業時に適宜プリントを配布する。			

授業科目(履修区分)	養豚 (専門教育・動物系)		担当教員	吉田 早希
対象年次	農学科1年		期 別	令和8年度 前期
単 位 数	2単位	講義： 2単位 実習： 単位	時 間 数	30時間
授業の目的及び概要	農業産出額が千葉県において上位の豚について、品種や特徴、生理等一般的な基礎的知識を習得し、養豚経営に必要な繁殖豚・子豚・肥育豚の飼養管理技術を学ぶ。			
授業の到達目標	豚の品種ごとの特徴や生理、飼養・繁殖・衛生・肥育管理技術等を理解する。			
授業の方法	・授業内容に沿った講義を行う。 ・定期的に小テストを実施し、習熟度を確認する。			
授業内容			講義	実習
	1 豚の外貌の特徴、消化器と食性、習性と行動		2	
	2 豚の一生、品種とその特徴		2	
	3 改良目標と審査、登録		2	
	4 系統造成、雑種利用		2	
	5 飼育形態と豚舎構造		2	
	6 子豚の生理的特徴、分娩時の管理		2	
	7 哺乳、餌づけ、人工乳、離乳		2	
	8 肉豚の飼育管理		2	
	9 枝肉、格付け、肉質		2	
	10 母豚の生理と飼育管理		2	
	11 雄豚の飼育管理と交配		2	
	12 妊娠と分娩		2	
	13 衛生と病気		2	
	14 期末試験		2	
	15 試験解説		2	
テキスト	「新版家畜飼育の基礎」(社団法人農山漁村文化協会)			
成績評価の方法	定期試験(70%)、小テスト(20%)、講義聴講態度(10%)			
備 考				

授業科目(履修区分)	養鶏 (専門選択・動物系科目)		担当教員	山田 真希夫
対象年次	農学科2年		期 別	令和9年度 後期
単 位 数	2単位	講義： 2単位 実習： 単位	時 間 数	30時間
授業の目的及び概要	鶏の品種と特徴、栄養・生理等一般的な基礎的知識を習得し、養鶏経営に必要な飼養管理技術、衛生管理技術、生産物の特性、経営の考え方等について学ぶ。			
授業の到達目標	養鶏に関する基礎知識の理解・習得と「自ら問い考えること」の重要性を認識すること			
授業の方法	質疑応答を基本に自分の頭で考えることを重視しながら進める			
授業内容			講義	実習
	1 概論(養鶏の産業的位置、鶏の体の特徴、習性と行動)		2	
	2 鶏の品種とその特徴、育種改良、鶏の一生		2	
	3 鶏の環境生理・生態、消化器の特徴と機能		2	
	4 鶏の栄養Ⅰ(栄養素、エネルギー代謝、飼料の種類と特徴)		2	
	5 鶏の栄養Ⅱ(ビタミン、ミネラル)		2	
	6 鶏の栄養Ⅲ(飼料設計・飼料計算)		2	
	7 自主学習(種卵の採取と孵化)		2	
	8 雛の生理と育雛・育成管理		2	
	9 採卵鶏の飼育形態と施設・機器		2	
	10 採卵鶏の管理(温度管理、光線管理、期別給与、AW※)		2	
	11 産卵生理(排卵から放卵まで)		2	
	12 生産物の特徴と利用、鶏卵の品質、卵質検査		2	
	13 鶏の衛生と病気		2	
	14 肉用鶏の生理と飼育技術		2	
	15 期末試験		2	
テキスト	「新版家畜飼育の基礎」(社団法人農村漁村文化協会) 日本飼養標準「家禽」			
成績評価の方法	期末試験(70%)、提出レポート(20%)、聴講態度(10%)			
備 考	※AW：アニマルウエルフェア			

(4) 専攻実習

授業科目(履修区分)	専攻実習(作物) (必修科目)		担当教員	藤井 雄樹 太田 和也
対象年次	農学科2年		期 別	令和9年度 通期
単 位 数	15単位	講義： 単位 実習：15単位	時 間 数	450時間
授業の目的及び概要	代表的な食用作物(水稻、ムギ類、マメ類、イモ類他)の栽培を通じて、食用作物の栽培技術、収穫調製方法、貯蔵方法等について学習する。最新の農業技術(スマート農業等)など機械利用による省力化技術やGAPに関する知識を習得し、その活用方法を学ぶ。			
授業の到達目標	食用作物の基本的な栽培管理・育苗技術、収穫調製技術、貯蔵技術を習得する。また、栽培時の経済性についても知見を深める。			
授業の方法	実習形式(ほ場での指導)			
授業内容			講義	実習
	1 水稻および畑作物の栽培管理技術 水稻、マメ類、イモ類、その他穀類の栽培計画を立て、ほ場準備、育苗、管理、収穫の流れと必要な技術を学ぶ。			100
	2 農業機械の操作方法、穀物の乾燥調製方法 ほ場準備や管理、収穫に必要な農業機械の操作方法、穀類の乾燥調製方法、貯蔵方法を学ぶ。			100
	3 経営能力の向上 10aあたりの粗収量や売上を数値で把握し、理解することで、実際の経営時に求められる算出方法を学ぶ。最終的には収益を計算し、農業経営を行う能力養成につなげる。			100
	4 水稻および畑作物の販売方法 学校直売や社稷祭を通じて、販売方法を学ぶ。			100
	5 農産物生産工程管理 GAPで認証の経験を活かし、農場の実情に合った労働安全や衛生管理方法、記録体制等の農場運営方法を学ぶ。			50
テキスト	必要により資料提供			
成績評価の方法	取り組む姿勢(70%)、技術・知識の習得状況(30%)			
備 考	参考図書:「稲作標準技術体系」・「麦作標準技術体系」・「大豆標準技術体系」・「野菜ハンドブック」(千葉県農林水産技術会議) 「農作物病虫害雑草防除指針」・「主要農作物等施肥基準等」(千葉県農林水産部環境農業推進課)			

授業科目(履修区分)	専攻実習(施設野菜) (必修科目)		担当教員	江口 菜 江澤 和哉
対象年次	農学科2年		期 別	令和9年度 通期
単 位 数	15単位	講義： 単位 実習：15単位	時 間 数	450時間
授業の目的及び概要	講義で学んだ知識をもとに、施設圃場においてトマト・キュウリ・メロン・イチゴ等の施設野菜のは種・育苗から収穫・出荷調製までの栽培管理及び施設環境の管理等、農業経営に必要な知識と技術を習得する。			
授業の到達目標	・施設野菜に関する生理生態・栽培管理技術を理解する。 ・農業生産工程管理及びスマート農業の基礎知識・考え方を習得する。 ・施設野菜産地の現状を把握する。			
授業の方法	農場での実習			
授業内容			講義	実習
	1 野菜に関する知識の習得 (1) 施設野菜の分類と栽培方法 (2) 施設野菜の育苗と栽培管理 (3) 病害虫の診断と対処法 (4) 環境負荷に考慮した栽培方法 (5) スマート農業・環境制御技術 2 栽培管理技術の習得 (1) 果菜類(トマト・キュウリ・メロン・イチゴ等)の品種特性、肥培管理、病害虫防除、収穫調製の基本的な技術習得と理解を進める。 (2) 葉茎菜類(コマツナ・ホウレンソウ等)の育苗管理、肥培管理を習得する。 3 知識や技術の実践力の体得 (1) 学生ごとに圃場や作物の栽培管理の実践			100
				150
				100
テキスト	適宜資料配布			
成績評価の方法	取り組む姿勢(80%)、技術・知識の習得状況(20%)			
備 考	参考図書 「野菜栽培の基礎」(社団法人 農山漁村文化協会)、「野菜ハンドブック」(千葉県農林水産技術会議)、「農作物病害虫雑草防除指針」、「主要農作物等施肥基準」(千葉県農林水産部環境農業推進課)			

授業科目(履修区分)	専攻実習（露地野菜） （必修科目）		担当教員	山下 雅大 池邊 慧祐	
対象年次	農学科2年		期 別	令和9年度 通期	
単 位 数	15単位	講義： 単位 実習：15単位	時 間 数	450時間	
授業の目的及び概要	野菜園芸学等の講義で学んだ知識を基礎にして、ほ場における実際栽培を学ぶ。 主要な露地野菜と無加温ハウスで栽培される野菜の生理生態や肥培管理及び出荷調製技術等を理解する。				
授業の到達目標	1 主要な露地野菜の生理生態や肥培管理及び出荷調製技術の習得 2 露地野菜経営の基礎知識の習得				
授業の方法					
授業内容				講義	実習
	1 野菜に関する知識の習得 （1）野菜の分類と栽培方法 （2）野菜の育苗と栽培管理 （3）病害虫の診断と対処法 （4）環境負荷に考慮したエコ農業 （5）野菜の収支計算と経営の基礎				50
	2 栽培管理技術の習得 （1）果菜類、豆類の品種特性、肥培管理、病害虫防除、収穫調製の基本的な技術習得と理解を進める。 （2）葉茎菜類の育苗管理、肥培管理を習得する。 （3）軟弱野菜の周年栽培技術を習得する。 （4）根菜類、いも類の品種特性やマルチ利用効果の理解を深める。				200
	3 知識や技術の実践力の体得 学生各自による圃場や作物の栽培管理の実践				150
	4 G A Pやスマート農業等に対する理解促進、効率的かつ適正な作業環境・作業方法の習得				50
テキスト	適宜資料を配布				
成績評価の方法	取り組む姿勢（80%）、技術・知識の習得状況（20%）				
備 考	参考図書：「野菜栽培の基礎」（社団法人 農山漁村文化協会）、「野菜ハンドブック」（千葉県農林水産技術会議）、「農作物病害虫雑草防除指針」、「主要農作物等施肥基準等」（千葉県農林水産部環境農業推進課）				

授業科目(履修区分)	専攻実習(果樹園芸) (必修科目)		担当教員	吉田 明広 井上 雄樹
対象年次	農学科2年		期 別	令和9年度 通期
単 位 数	15単位	講義： 単位 実習：15単位	時 間 数	450時間
授業の目的及び概要	県主要品目であるニホンナシ、ビワを中心に、年間を通して果樹栽培に必要な知識と技術を習得する。 実習は、作業内容の説明や技術的な講義を事前に実施し、理論的な思考と実践を組み合わせることで理解度の向上を促す。			
授業の到達目標	・ニホンナシの生理生態や栽培技術及び品質管理技術について理解する。 ・その他の果樹について栽培技術を理解する。 ・農業機械による除草や薬剤散布技術を習得する。 ・農業生産工程管理及びスマート農業の基礎知識・考え方を習得する。			
授業の方法				
授業内容			講義	実習
	1 果樹に関する知識の習得 (1) 果樹の栽培方法 (2) 果樹の繁殖法と果実の品質管理 (3) 病害虫の診断と対処法 (4) 農業生産工程管理、スマート農業機械 2 栽培管理技術の習得 (1) 落葉果樹(ナシ・ブルーベリー・ブドウ)の品種特性、施肥管理、病害虫防除、剪定などの基本的な技術習得と理解を進める。 (2) 常緑果樹(ミカン・ビワ等)の品種特性、施肥管理、病害虫防除、剪定などの基本的な技術習得と理解を進める。 3 実践力の習得 (1) 卒論課題品目の栽培管理の実践 (2) その他の果樹の栽培管理の実践(共同管理)			100
				150 (125)
				(25)
				200
テキスト	適宜資料配布			
成績評価の方法	取り組む姿勢(実習ノート含む)(80%)、技術・知識の習得状況(20%)			
備 考	・実習ノートを適宜提出し、実習の理解度について確認する。 参考図書 「農作物病害虫雑草防除指針」、「主要農作物等施肥基準等」(千葉県農林水産部環境農業推進課)			

授業科目(履修区分)	専攻実習（花き園芸） （必修科目）		担当教員	田口 和泉 永山 春菜	
対象年次	農学科2年		期 別	令和9年度 通期	
単 位 数	15単位	講義： 単位 実習：15単位	時 間 数	450時間	
授業の目的及び概要	花き栽培における基幹作物の栽培をとおして、栽培管理の基礎、生理生態的特徴、温室などの施設管理の基本を学び、花き栽培の実践的能力を養う。また、スマート農業技術やMPS-ABCの理念を学習する。				
授業の到達目標	主要な花き栽培に関する知識・技術の習得				
授業の方法	切り花及び鉢花の実習を主に実施する。また卒論で扱う植物以外にも、多くの花きに接するとともに、それらの花きを栽培することにより花き生産の基本的事項を習得する。				
授業内容	1 花き栽培に関する知識の習得 （1）名称・分類 （2）栽培計画 （3）施肥設計 （4）播種・育苗管理 （5）病虫防除技術 （6）温室管理技術 （7）灌水方法 （8）除草 2 効率的な出荷調整作業の習得 3 生産した花きを活用した装飾技術の習得 4 試験・調査方法の習得 5 スマート農業技術の習得 6 MPS-ABC 認証をとおした環境負荷低減			講義	実習
テキスト	適宜資料配付				
成績評価の方法	取組み姿勢、技術・知識の習得状況				
備 考	参考図書 「草花栽培の基礎」、「花卉園芸学の基礎」「花の小事典」、「農業技術体系」（社団法人農山漁村文化協会）				

授業科目(履修区分)	専攻実習（畜産） （必修科目）		担当教員	伊藤 香葉 吉田 早希	
対象年次	農学科 2年		期 別	令和9年度 通期	
単 位 数	15単位	講義： 単位	時 間 数	450時間	
		実習：15単位			
授業の目的及び概要	家畜飼養管理作業を通じて、自らがやるべきことを考え、問題を解決する能力を養うことを目標とする。また、スマート畜産機器やHACCPに関する知識を習得しその活用方法を学ぶ。				
授業の到達目標	1 家畜、家禽の飼養管理を行うことができる 2 農場 HACCP の取り組みについて理解することができる 3 スマート畜産機器について知識を習得する				
授業の方法					
授業内容				講義	実習
	1 家畜、家禽の飼養管理 （1）飼料設計及び飼料調整 （2）飼料給与 （3）畜舎清掃及び整理整頓 （4）繁殖管理 発情観察、交配、分娩（牛、豚） （5）搾乳（牛） （6）集卵、鶏卵処理 （7）堆肥生産 （8）出荷作業 （9）簡単な畜舎補修 （10）草地管理及び環境美化 （11）農場HACCPの取り組み				350
	2 自給飼料栽培、調製 （1）耕耘、播種、除草等の栽培管理 （2）収穫、梱包等の飼料調製作業				50
	3 試験に関係する調査 （1）体重測定、体尺測定、卵質検査、飼料測定、牛行動モニタリングシステムを活用した行動調査等				50
テキスト	適宜資料配布				
成績評価の方法	取り組む姿勢（80%）、技術・知識の習得状況（20%）				
備 考	「家畜飼育の基礎」（一般社団法人農山漁村文化協会/2008）				

授業科目(履修区分)	専攻実習(情報経営) (必修科目)		担当教員	菅澤 太地
対象年次	農学科2年		期 別	令和9年度 通期
単 位 数	15単位	講義： 単位 実習：15単位	時 間 数	450時間
授業の目的及び概要	経営資源であるヒト・モノ・カネ・情報を活かし、継続的な農業経営を行っていくための考え方、手法を学ぶとともに、農業経営には欠かせない基礎的な栽培技術を圃場にて習得する。 「現状の分析や計画、実行し、目的を達成していく。失敗したら何が原因だったのか反省し評価する。」といった、会社におけるマネジメント層に必要な主体性を身に付ける。			
授業の到達目標	自ら考えて栽培計画や試験研究の実施を行うことで、上記のような論理的思考を養うことを目標とする。			
授業の方法				
授業内容			講義	実習
	1 経営に関する知識の習得 (1) 農業経営の状況を把握する手法 (2) 農産物販売における手法 (3) 生産工程管理の基本と5S(整理、整頓、清掃、清潔、躰)の実践 (4) スマート農業に関する理解促進			50
	2 情報収集の手法と処理技術の習得 (1) 農業経営に必要な情報の集め方 (2) 情報処理やプレゼンテーション資料の作成方法 (3) 農業経営の収益性、生産性の分析			200
	3 知識や技術の実践力の体得 (1) 主要品目の栽培技術習得および経営効果の分析			200
テキスト	適宜資料配布			
成績評価の方法	取り組む姿勢(80%)、知識・習熟度(20%)			
備 考	参考図書：「野菜ハンドブック」(千葉県農林水産技術会議) 「農作物病害虫雑草防除指針」「主要農作物等施肥基準」 (千葉県農林水産部環境農業推進課) 「野菜経営収支試算表」(千葉県農林水産技術会議)			

授業科目(履修区分)	専攻実習（生物工学） （必修科目）		担当教員	中田 菜々子
対象年次	農学科 2年		期 別	令和9年度 通期
単 位 数	15単位	講義： 単位 実習：15単位	時 間 数	450時間
授業の目的及び概要	微生物及び植物の培養、順化、栽培を通して、技術の習得、計画の考案、栽培技術の基礎を身に付ける。また、各自の卒業論文テーマに合わせた試験研究を実施し、調査方法等を習得する。			
授業の到達目標	基本的な組織培養技術の習得			
授業の方法	実習形式			
授業内容			講義	実習
	1 薬品、実験器具の正しい使用法 安全性、正確性を重視した正しい使用方法を学ぶ			100
	2 課題の設定と実験計画 生物工学的手法による農業分野の課題解決事例を学び自らの課題及び実験計画を設計する			30
	3 無菌操作技術の習得 無菌操作の意義、クリーンベンチの使用法、実験器具の滅菌方法を学ぶ			100
	4 植物組織培養技術の習得 培地設計、外植体の摘出、培養経過の調査方法を学ぶ			100
	5 実験植物等の栽培技術の習得 圃場・温室の管理及び植物の維持管理方法を学ぶ			100
	6 文献等情報収集法の習得 適切な参考文献等情報の収集方法を学ぶ			10
テキスト	実習内容によって適宜関連文献等を配布			
成績評価の方法	取り組む姿勢（50%）、知識・習熟度（50%）			
備 考				

授業科目(履修区分)	専攻実習（食品加工） （必修科目）		担当教員	宮城 美紀子
対象年次	農学科2年		期 別	令和9年度 通期
単 位 数	15単位	講義： 単位 実習：15単位	時 間 数	450時間
授業の目的及び概要	食品加工では、農作物の生産（1次産業）だけではなく、製造・加工（2次産業）、販売（3次産業）にむけて取り組み、農産物に新しい付加価値をつけ、農業所得の向上に向け6次産業化への研究を行い、新しい地域産業を創出する取り組みを目指す。			
授業の到達目標	・ 6次産業化事例から、現状と課題を把握する。 ・ 学校圃場や地域の農産物を教材として、その加工特性、加工貯蔵技術を習得する。 ・ 農業生産工程管理及びスマート農業の基礎知識・考え方を習得する。			
授業の方法	専攻教室、専攻圃場、食品加工実験室で実習を行う。			
授業内容			講義	実習
	1 6次産業化に取り組む事例の現状と課題の把握			50
	2 地域農業の現状や問題点の把握及び課題解決手法の把握			50
	3 食品加工専攻圃場での基本的な野菜栽培技術の習得			
	4 食品加工技術の向上			150
	(1) 農産加工原料の特性と加工方法の習得			200
	(2) 貯蔵の技術習得			
	(3) 生産工程管理の基本と5S（整理、整頓、清掃、清潔、躰）の実践			
テキスト	適宜資料配布 「食品製造」（実教出版）、「新食品成分表」（東邦出版）			
成績評価の方法	取り組む姿勢（70%）、技術・知識の習得状況（30%）			
備 考				

授業科目(履修区分)	専攻実習(土壌肥料) (必修科目)		担当教員	高田 伯約
対象年次	農学科2年		期 別	令和9年度 通期
単 位 数	15単位	講義： 単位 実習：15単位	時 間 数	450時間
授業の目的及び概要	土壌肥料概論及び土壌肥科学等の講義で学んだ知識を基礎にして、農作物の栽培における効率的で実効性のある土壌管理及び環境に配慮した農業経営に必要な知識と技術を習得する。			
授業の到達目標	環境保全型農業の取組を理解し、施肥技術を中心とした基礎的な栽培管理技術を習得することを目標とする。			
授業の方法				
授業内容			講義	実習
	1 土壌管理に係る知識の習得 (1) 土壌分析方法 (2) 土壌分析を基にした施肥設計及び栽培計画 (3) 調査項目の設定、ほ場管理 (4) 収量調査、土壌調査、その他の調査(食味調査等) (5) 栽培後の管理			100
	2 環境保全型農業技術の理解			100
	3 野菜の基礎的栽培技術の習得			100
	4 土壌管理と植物の生育に及ぼす影響の理解			150
テキスト	適宜資料配布			
成績評価の方法	取り組む姿勢(50%)、知識・習熟度(50%)			
備 考	参考図書 「野菜ハンドブック」(千葉県農林水産技術会議) 「農作物病虫害雑草防除指針」、「主要農作物等施肥基準等」 (千葉県農林水産部環境農業推進課)、 「農業技術体系」、「土と施肥の新技术」、「みんなの有機農業技術大辞典」 (社団法人 農山漁村文化協会)			

授業科目(履修区分)	専攻実習(病害虫) (必修科目)		担当教員	清水 敏夫
対象年次	農学科2年		期 別	令和9年度 通期
単 位 数	15単位	講義： 単位 実習：15単位	時 間 数	450時間
授業の目的 及び概要	病害虫に関する知識向上のため、病害虫専攻教室ほ場において実際の栽培や病害虫及び天敵の発生生態、病害虫管理法等を学ぶ。 また、各自の各卒業論文のテーマに合わせた調査研究を実施し、その取りまとめを行う。			
授業の到達 目標	基本的な栽培技術の習得、病害虫及び天敵の発生生態の解明、総合的病害虫管理技術等の習得			
授業の方法	実習及び現地視察			
授業内容			講義	実習
	1 病害虫・天敵等に関する知識の習得 (1) 農作物の病害虫の診断について (2) 農作物の病害虫の生理生態について (3) 農作物害虫と天敵の見分け方、天敵の分類、生態等について (4) 総合的病害虫・雑草管理(IPM)の考え方について (5) IPMを念頭に置いた病害虫管理技術とその実践方法について			150
	2 農作物の栽培管理技術、病害虫や天敵の増殖技術等の習得 (1) 農作物の播種、育苗技術の習得 (2) 農作物の栽培技術及び収穫方法の習得 (3) 農作物の病害虫管理技術の習得 (4) 病害虫や天敵の飼育・増殖方法等の習得			150
	3 試験方法及び調査方法の習得と実践 試験設計、試験区の設定、調査方法、データの集計方法、解析方法、プレゼンテーション方法の習得及び実践			280
	4 スマート農業等に対する理解促進 5 地域連携による商品開発の方法及び実践			20 60
テキスト	各自の試験内容に係る図書及び文献(学術論文等)			
成績評価 の方法	取り組む姿勢(50%)、知識・習熟度(50%)			
備 考				

(5) 卒業論文

授業科目(履修区分)	卒業論文(作物) (必修科目)		担当教員	藤井 雄樹 太田 和也
対象年次	農学科2年		期 別	令和9年度 通期
単 位 数	4単位	講義： 単位 実習： 4単位	時 間 数	120時間
授業の目的及び概要	水稻、麦、マメ類、イモ類などの代表的な食用作物について、課題を設定し、栽培を行う。それにより作物の生理生態を理解し、課題解決のための調査・研究を行い、科学的な解析手法を学ぶ。さらに卒論発表と論文まとめを通じ、資料作成や情報収集、プレゼンテーション能力を養う。			
授業の到達目標	課題を設定し、作物栽培を通して必要データを収集し、科学的な解析能力を身に付ける。また、得られた結果を分かりやすい形でまとめる能力を身に付ける。			
授業の方法	実習形式(ほ場での指導、実験室での分析操作、教室での解析)			
授業内容			講義	実習
	1 課題の設定			15
	2 試験設計立案(品目、内容の検討)			15
	3 試験区設定			15
	4 試験栽培			15
	5 調査、データの収集			15
	(環境条件、土壌分析、生育・収量・品質調査、病害虫発生状況等)			15
	6 調査結果のまとめ、分析			15
	7 パネル作成と展示(11月中旬)			15
	8 卒業論文発表会(12月上旬)			15
	9 卒業論文提出(2月中旬)			
テキスト	適宜資料を配布する			
成績評価の方法	卒業論文(50%)、卒論発表会(30%)、取り組む姿勢(20%)、			
備 考	参考図書 「作物栽培の基礎」(社団法人農山漁村文化協会) 「稲作標準技術体系」・「麦作標準技術体系」・「大豆標準技術体系」・ 「野菜ハンドブック」(千葉県農林水産技術会議) 「農作物病害虫雑草防除指針」・「主要農作物等施肥基準等」 (千葉県農林水産部環境農業推進課)			

授業科目(履修区分)	卒業論文(施設野菜) (必修科目)		担当教員	江口 菜 江澤 和哉
対象年次	農学科2年		期 別	令和9年度 通期
単 位 数	4単位	講義： 単位 実習： 4単位	時 間 数	120時間
授業の目的及び概要	卒業論文の作成に当たり、自ら課題を設定し、栽培計画を作成する。その計画に基づいた調査・研究を行い、観察力や生育調査による科学的な分析力を学び、論文としてまとめる。			
授業の到達目標	- 適切な調査方法や調査規模の考え方を理解する。 - 適切なデータの収集方法、分析方法を理解する。 - 論理的な文章の構成を理解する。			
授業の方法	圃場での調査、プレゼン資料の作成、発表会での成果報告			
授業内容			講義	実習
	1 課題の設定 2 試験設計立案(品目、内容の検討) 3 試験区設定 4 試験栽培 5 調査、データの収集、知見 (気象・環境条件、土壌分析、生育・収量・品質調査、病害虫発生状況等) 6 調査結果のまとめ、分析 7 パネル作成 8 卒論発表会(12月上旬) 9 卒業論文提出(2月上旬) 10 卒業論文進路報告会(2月中旬)			4 4 4 28 12 32 4 8 20 4
テキスト	各自の卒論内容に適した資料を配付する。			
成績評価の方法	取り組む姿勢(60%)、卒業論文(20%)、卒論発表会(10%)、パネル展示(10%)			
備 考	参考図書 「野菜栽培の基礎」(社団法人農山漁村文化協会)、「野菜ハンドブック」(千葉県農林水産技術会議)、「農作物病害虫雑草防除指針」、 「主要農作物等施肥基準」(千葉県農林水産部環境農業推進課)			

授業科目(履修区分)	卒業論文（露地野菜） （必修科目）		担当教員	山下 雅大 池邊 慧祐	
対象年次	農学科2年		期 別	令和9年度 通期	
単 位 数	4単位	講義： 単位	時 間 数	120時間	
		実習： 4単位			
授業の目的及び概要	露地野菜の生理生態や栽培の基礎及び出荷調整技術などを理解する。 卒業論文の作成にあたっては、課題を設定し、栽培計画を作成する。課題に基づいた調査・研究を行い、問題解決学習の一環として観察力や生育調査による科学的な分析力を学び、論文としてまとめる。				
授業の到達目標	1 露地野菜経営における課題解決能力の習得 2 プロジェクト活動を通したコミュニケーション力や協同力の習得				
授業の方法					
授業内容				講義	実習
	1 課題の設定 2 試験設計立案（品目、内容の検討） 3 試験区設定 4 試験栽培 5 調査、データの収集、知見 （気象・環境条件、土壌分析、生育・収量・品質調査、病害虫発生状況等） 6 調査結果のまとめ、分析 7 パネル展示 8 卒論発表会（12月上旬） 9 卒業論文提出（2月上旬） 10 卒業論文進路報告会（2月中旬）				10 10 10 30 30 10 5 10 10 5
テキスト	適時プリントを配布する				
成績評価の方法	取り組む姿勢（60%）、卒業論文（20%）、卒論発表会（10%）、パネル展示（10%）				
備 考	参考図書 「野菜栽培の基礎」（社団法人 農山漁村文化協会）、「野菜ハンドブック」（千葉県農林水産技術会議）、「農作物病害虫雑草防除指針」、「主要農作物等施肥基準等」（千葉県農林水産部環境農業推進課）				

授業科目(履修区分)	卒業論文（果樹園芸） （必修科目）		担当教員	吉田 明広 井上 雄樹	
対象年次	農学科2年		期 別	令和9年度 通期	
単 位 数	4単位	講義： 単位	時 間 数	120時間	
		実習：4単位			
授業の目的及び概要	卒業論文の作成に当たり、自ら課題を設定し、栽培計画を作成する。その計画に基づいた調査・研究を行い、観察力や生育調査による科学的な分析力を学び、論文としてまとめる。				
授業の到達目標	・実験計画法を理解する。 ・適切な調査方法や調査規模の考え方を理解する。 ・適切なデータの収集方法、分析方法を理解する。 ・論理的な文章の構成を理解する。				
授業の方法					
授業内容				講義	実習
	1 課題の設定				6
	2 試験設計立案（品目、内容の検討）				6
	3 試験区設定				6
	4 試験栽培				50
	5 調査、データの収集、知見 （気象・環境条件、土壌分析、生育・収量・品質調査、病害虫発生状況等）				23
	6 調査結果のまとめ、分析				12
	7 社稷祭パネル作成				1
	8 卒論発表会（12月上旬）				10
	9 卒業論文執筆（2月上旬締切）				1
10 卒業論文進路報告（2月中旬）				5	
テキスト	各自の卒論内容に適した資料を配付する。				
成績評価の方法	取り組む姿勢(調査ノート含む) (60%)、卒業論文 (20%)、卒論発表会 (10%)、社稷祭パネル展示 (10%)				
備 考	・教職員の定める各提出物の締め切りを遵守すること。 ・雨天時を除き、実習時間中に論文執筆作業は行わない。 参考図書 各品目の標準技術体系（千葉県）、「農作物病害虫雑草防除指針」、「主要農作物等施肥基準」（千葉県農林水産部環境農業推進課）				

授業科目(履修区分)	卒業論文（花き園芸） （必修科目）		担当教員	田川 和泉 永山 春菜	
対象年次	農学科2年		期 別	令和9年度 通期	
単 位 数	4単位	講義： 単位 実習： 4単位	時 間 数	120時間	
授業の目的及び概要	卒論対象の花きの栽培管理を通して基本技術を習得することに加え、自分で考えて課題を進め、問題解決する能力を養成することを目的とする。 卒論作成及び発表にあたり、データの取りまとめや発表会資料の作成を行うことにより発表方法を学び対外的な説明能力を養う。				
授業の到達目標	花き栽培の問題を把握し、自ら課題を設定して、解決に向けて調査に取り組むことができる。				
授業の方法	実習				
授業内容				講義	実習
	1 対象花きの選定及び課題の決定				2
	2 調査、試験設計の立案				4
	3 参考文献の調査及び読み込み				4
	4 対象花きの栽培管理、調査、データ収集				60
	5 調査結果の分析、まとめ、考察				40
	6 卒論中間報告（9月）				2
	7 卒論パネル発表（11月）				2
	8 卒論発表会（12月上旬）				2
	9 卒業論文提出（2月上旬）				2
	10 卒業論文受理式（2月中旬）				2
テキスト	適宜資料配付				
成績評価の方法	卒論への取り組み姿勢や理解度、中間発表、パネル展示、成果発表会				
備 考	参考図書 「草花栽培の基礎」、「花卉園芸学の基礎」、「農業技術体系」（社団法人農山漁村文化協会）、その他必要に応じて品目別に専門資料を配付				

授業科目(履修区分)	卒業論文（畜産） （必修科目）		担当教員	伊藤 香葉 吉田 早希	
対象年次	農学科2年		期 別	令和9年度 通期	
単 位 数	4単位	講義： 単位 実習： 4単位	時 間 数	120時間	
授業の目的及び概要	調査対象家畜・家禽の飼養管理作業や飼料作物の栽培管理作業等を通じて、自らがやるべきことを考え、適時に調査を行い、問題を解決する能力を養う。 卒論をまとめる作業を行いながら、測定データを読む力、パソコン操作の習熟に努める。				
授業の到達目標	1 自ら課題を設定し、調査を行い、卒論発表会で発表する 2 調査したデータをまとめ、論文として提出する				
授業の方法	授業の目的及び概要に従い実習を行う。				
授業内容				講義	実習
	1 対象家畜・家禽・飼料作物及び課題の設定				10
	2 試験設計立案（材料及び方法、調査項目の検討）				10
	3 参考文献の調査、読み込み				10
	4 対象家畜・家禽・作物の飼育・栽培管理及び調査、データ収集				25
	5 調査結果のまとめ、分析				20
	6 卒論発表会（12月上旬）				20
	7 卒業論文提出（2月上旬）				20
	8 卒業論文報告会（2月中旬）				5
テキスト	適宜資料配布				
成績評価の方法	取り組む姿勢(60%)、卒業論文(20%)、卒論発表会(10%)、パネル展示(10%)				
備 考	参考図書 「家畜飼育の基礎」（農山漁村文化協会/2008） 「日本飼養標準」（中央畜産会） 「畜産センター研究報告書」（千葉県畜産総合研究センター）				

授業科目(履修区分)	卒業論文(情報経営) (必修科目)		担当教員	菅澤 太地
対象年次	農学科2年		期 別	令和9年度 通期
単 位 数	4単位	講義： 単位 実習： 4単位	時 間 数	120時間
授業の目的及び概要	農業経営において、基礎的な情報収集・分析手法を習得する。また、経営改善を図る必要な考え方や能力を育てる。 課題設定、調査手法、スケジュール管理、分析方法を理解し、パソコン操作を習熟させてデータを取りまとめる。			
授業の到達目標	適切な調査方法や調査規模の考え方を理解する。 ・適切なデータの収集方法、分析方法を理解する。 ・論理的な文章の構成を理解する。			
授業の方法	圃場や現地での調査、プレゼン資料の作成、発表会での成果報告			
授業内容			講義	実習
	1 課題の設定			10
	2 調査設計立案(対象、方法の検討)			10
	3 調査期間、対象、データの取得方法、分析方法の設定			10
	4 調査、データの収集、知見 (売上、費用、損益分岐点、アンケート結果集計 等)			30
	5 調査結果のまとめ、分析			20
	6 パネル展示			5
	7 卒論発表会(12月上旬)			10
	8 卒業論文提出(2月上旬)			20
	9 卒業論文進路報告会(2月中旬)			5
テキスト	各自の課題内容に関連した資料を配布する。			
成績評価の方法	取り組む姿勢(60%)、卒業論文(20%)、卒論発表会(10%)、パネル展示(10%)			
備 考				

授業科目(履修区分)	卒業論文(生物工学) (必修科目)		担当教員	中田 菜々子
対象年次	農学科2年		期 別	令和9年度 通期
単 位 数	4単位	講義： 単位 実習：4単位	時 間 数	120時間
授業の目的及び概要	農業における生物工学分野の課題について自ら考え解決する能力を養うことを目標とする。卒業論文作成及び発表に当たり、データを解析し考察することに努め、研究成果を説明する能力を向上させる。			
授業の到達目標	課題の設定方法、実験計画の立て方、データのとり方とまとめ方、卒業論文の作成方法を理解し実践する。			
授業の方法	実習形式			
授業内容			講義	実習
	1 課題の設定			16
	2 調査及び実験計画立案			20
	3 試験区設定			4
	4 実験データの取り方とまとめ方			20
	5 パネル展示			20
	6 卒業論文発表会(12月上旬)			20
	7 卒業論文作成、提出(2月上旬)			20
	8 卒業論文進路報告会(2月中旬)			
テキスト	資料を提供し、適時紹介する			
成績評価の方法	取り組む姿勢(60%)、パネル展示(10%)、卒業論文発表会(10%)、卒業論文(20%)			
備 考				

授業科目(履修区分)	卒業論文(食品加工) (必修科目)		担当教員	宮城 美紀子
対象年次	農学科2年		期 別	令和9年度 通期
単 位 数	4単位	講義： 単位 実習： 4単位	時 間 数	120時間
授業の目的及び概要	食品学、食品加工の基礎を理解し、6次産業化に向け取り組みを行う。卒業論文の作成に当たっては、課題を設定し、進行計画を作成する。課題に基づいて調査・研究を行い、農産物に付加価値をつけ農業生産者が実際に活用できる手法を検討し論文としてまとめる。			
授業の到達目標	・ 6次産業化事例や地域農業の課題に基づいた課題の設定 ・ 試験計画、実施、結果の考察を論理的に行う			
授業の方法				
授業内容			講義	実習
	1 課題の設定			10
	2 試験設計立案(内容の検討)			5
	3 加工実験内容設定			
	4 試験栽培、加工			40
	5 調査、データの収集、知見 (食べ方、使用方法の提案・栽培状況・収量・消費動向状況等)			30
	6 調査結果のまとめ、分析			15
	7 パネル展示			5
	7 パネル展示			10
	8 卒論発表会(12月上旬)			5
	9 卒業論文提出(2月上旬)			
	10 卒業論文進路報告会(2月中旬)			
テキスト	適宜資料配布 「食品製造」(実教出版) 「新食品成分表」(東邦出版) 「野菜ハンドブック」(千葉県農林水産技術会議)			
成績評価の方法	取り組み姿勢(60%)、卒業論文(20%)、卒論発表会(10%)、パネル展示(10%)			
備 考	参考図書			

授業科目(履修区分)	卒業論文（土壌肥料） （必修科目）		担当教員	高田 伯約	
対象年次	農学科2年		期 別	令和9年度 通期	
単 位 数	4単位	講義： 単位	時 間 数	120時間	
		実習：4単位			
授業の目的及び概要	卒業論文の作成に当たり、自ら課題を設定し、土壌分析を基にした栽培計画を作成する。計画に基づいた調査・研究を行い、生育調査や栽培前後の土壌分析等による科学的な分析力を学び、論文としてまとめる。				
授業の到達目標	適切な調査方法や分析方法を理解し、実践する。論理的な文章の構成を理解し、パネルや発表会資料等を作成する。				
授業の方法					
授業内容				講義	実習
	1 対象作物・肥料等及び課題の設定 2 試験設計（材料及び方法、調査項目の検討） 3 試験栽培 4 栽培管理及び調査、データの収集 （環境条件、土壌分析（化学性、物理性、地温等）、生育・収量調査、病虫害発生状況等） 5 調査結果のまとめ、分析 6 パネル作成（社稷祭） 7 卒論発表会（12月上旬） 8 卒業論文作成（2月上旬） 9 卒業論文進路報告会（2月中旬）				10 5 40 25 15 5 10 5 5
テキスト	なし				
成績評価の方法	取組姿勢及び理解度(60%)、卒業論文(20%)、パネル展示(10%) 卒業論文発表会(10%)				
備 考	参考図書 「農業技術体系」、「土と施肥の新技術」、「みんなの有機農業技術大辞典」（社団法人 農山漁村文化協会） 「野菜ハンドブック」（千葉県農林水産技術会議） 「農作物病虫害雑草防除指針」、「主要農作物等施肥基準等」（千葉県農林水産部環境農業推進課）				

授業科目(履修区分)	卒業論文(病害虫) (必修科目)		担当教員	清水 敏夫
対象年次	農学科2年		期 別	令和9年度 通期
単 位 数	4単位	講義： 単位 実習：4単位	時 間 数	120時間
授業の目的及び概要	病害虫に関する知識の向上と研究手法の習得を図るとともに、成果のとりまとめに関する能力を醸成する。 卒業論文の作成にあたっては、課題を設定し、研究計画を立てる。課題に対応した調査・研究を行い、結果を適切に解析することにより、科学的な分析力を習得し、成果を論文としてまとめる。			
授業の到達目標	現地の課題に沿った課題設定を行い、栽培や事例調査等を通じて必要データを収集、データ分析を行い、研究成果としてまとめる。			
授業の方法	実習及び現地視察、プレゼン資料の作成、発表会での成果報告			
授業内容			講義	実習
	1 課題の設定			10
	2 試験設計立案(品目、内容等の検討)			5
	3 試験区設定			5
	4 試験実施			30
	5 調査データの収集及び知見の蓄積(病害虫及び天敵の発生状況、環境条件、生育・収量・品質調査等)			20
	6 調査結果のまとめ、データ解析			20
	7 パネル展示			5
	8 卒論発表会(12月上旬)			10
	9 卒業論文提出(2月中旬)			10
	10 卒業論文進路報告会(2月下旬)			5
テキスト	各自の試験内容に関係する図書及び文献(学術論文等)			
成績評価の方法	取り組む姿勢(60%)、卒業論文(20%)、卒論発表会(10%)、パネル展示(10%)			
備 考	参考図書 「農業技術体系 野菜の基礎知識」(社団法人 農山漁村文化協会) 「野菜ハンドブック」(千葉県農林水産技術会議) 「農作物病害虫雑草防除指針」、「主要農作物等施肥基準」、「千葉県主要農作物等施肥基準等」(千葉県農林水産部環境農業推進課)			